

ポータブルベースユニット

取扱説明書

PB-01

お買い上げいただきありがとうございます。



指示

クロスリモートのペアリングをする際に

受信機で送信機の設定を変える際には、必ず免許状に記載された周波数および空中線電力に従った設定にしてからご使用ください。

目次

特長	3
各部の名称と働き	5
フロントパネル	5
リアパネル	7
準備	9
カバーを取り外す	9
電源コードを接続する	10
レシーバーを取り付ける	10
ヘッドホンカスケード機能を使う	12
システム構成例	13
付属アンテナについて	13
マルチチャンネルシステムシステム構成例	14
ST リモートシステムの例	17
NT リモートシステムの例	18
メニューの表示と詳細設定	19
メニューの構成と階層	19
メニューの基本操作	20
RECEIVER (レシーバー) メニュー	21
周波数帯域の選択 (BAND)	21
グループ/チャンネルの選択 (GP/CH)	21
アクティブチャンネルスキャン機能 (ACT CH SCAN)	21
クリアチャンネルスキャン機能 (CLR CH SCAN)	21
秘匿通信機能 (ENCRYPTION)	21
オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)	22
オーディオ出力の設定 (AF OUTPUT)	22
TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニュー	22
トランスミッター名称の表示 (TRANSMITTER NAME)	22
省電力設定の表示 (POWER SAVE)	23
送信電力設定の表示 (RF POWER)	23
オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)	23
アッテネーターの表示 (ATT)	23
ローカットフィルター設定の表示 (LCF)	23
累積使用時間の表示 (TIME)	23
+48 V 電源設定の表示 (+48V)	23
内蔵信号発生の表示 (INTERNAL SG)	23
POWER スイッチのロック (PWR SW LOCK)	23
POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)	23
RF REMOTE メニュー	23
Cross Remote を使う (RF REMOTE)	23
ペアリングを行う	23

UTILITY メニュー	25
レシーバーの RF アッテネーター設定 (ANT ATT)	25
音声遅延時間表示とチャンネル間の遅延差補正 (DELAY ADJUST)	25
レシーバーの名前の設定 (RECEIVER NAME)	26
レシーバーの IP アドレスの設定 (IP ADDRESS)	26
レシーバーのサブネットマスクの設定 (SUBNET MASK)	26
レシーバーを工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)	26
レシーバーのソフトウェアバージョンの表示 (RECEIVER VERSION)	26
CONFIGURATION メニュー	27
受信に関する機能 (CONFIG RF サブメニュー)	27
音声に関する機能 (CONFIG AUDIO サブメニュー)	27
その他の機能 (CONFIG OTHER サブメニュー)	28
本機でトランスミッターの設定を変更する	29
周波数帯域の設定 (BAND)	29
グループ/チャンネルの設定 (GP/CH)	29
トランスミッター名称の設定 (TRANSMITTER NAME)	29
省電力設定 (POWER SAVE)	29
送信電力の設定 (RF POWER)	30
オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)	30
ローカットフィルターの設定 (LCF)	30
トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)	30
+48 V 電源設定の変更 (+48V)	30
オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)	30
内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)	30
POWER スイッチのロック設定 (PWR SW LOCK)	30
ブロックダイアグラム	31
ALERT インジケーターが点灯したら	32
エラーメッセージ	33
故障かなと思ったら	34
使用上のご注意	35
使用・保管場所	35
お手入れ	35
受信チャンネルによる感度差について	35
受信電波が弱い場合の音声劣化について	35
ライセンスについて	36
主な仕様	36

特長

PB-01 は、デジタルワイヤレスレシーバー DWR-P01DN を 3 台まで収納し、レシーバーへの電源供給や、本機に接続したアンテナからの RF 信号を分配供給できる、可搬型のポータブルベースユニットです。

DWX とは

DWX は、業務用マイクロホンに代表される音作りのノウハウと、安定性に定評のあるワイヤレス伝送技術に、最新かつオリジナルのデジタルオーディオ技術を融合させたソニーのデジタルワイヤレスマイクロホンシステムです。

DWX は、デジタルならではの高音質伝送に加え、多チャンネル同時運用、暗号化伝送、トランスミッターの状態をモニターするメタデータ伝送、さらに本線系と別系統の通信機能をもつことで、レシーバーからトランスミッターをコントロールするといった、さまざまな革新的ワークフローを実現します。

WiDIF-HP とは

「WiDIF-HP」（WiDIF：Wireless Digital Interface Format、HP：High Profile）は、ソニーが独自に開発した、システムの核となるワイヤレスのデジタルオーディオインターフェースです。

これにより、高音質かつ低遅延、そして多チャンネル同時運用と秘匿伝達を実現しました。

“Cross Remote” とは

“Cross Remote” は、レシーバー本体やレシーバーに接続されているコンピューターにインストールされたコントロールソフトウェア “Wireless Studio” から、トランスミッターを監視／制御するためのシステムです。

例えば、衣装の下などに装着されたトランスミッターの設定変更も、ワイヤレスで簡単に行えます。

1 台で最大 6 チャンネルの同時運用

DWR-P01DN を 3 台収納することにより、最大で 6 チャンネル同時運用のダイバーシティ受信システムを構成することができます。

アンテナディバイダー内蔵

本機はアンテナディバイダーを内蔵しているため、複数チャンネルを受信する際も 2 本のアンテナで運用可能です。

幅広い周波数帯をカバー

1 台でホワイトスペース帯およびラジオマイク専用帯（470 MHz ～ 714 MHz）、1.2 GHz 帯の RF 信号に対応し、異なる周波数のレシーバーを取り付け、同時に運用することが可能です。

最大 82 チャンネルの同時運用システム構成が可能

本機はアンテナのカスケード出力端子を備えており、PB-01 をもう 2 台接続することによって、最大 18 チャンネル同時運用のダイバーシティ受信システムを構成することができます。また、別売のアンテナディバイダーを使用して、最大 82 チャンネルを受信可能なシステムを構成することもできます。

◆ システム構成について詳しくは、「システム構成例」（13 ページ）をご覧ください。

ヘッドホンカスケード機能搭載

付属のカスケード接続ケーブルで複数の PB-01 を接続し、1 つのヘッドホンで複数台の音声をモニターできます。

システム規模に応じたワイヤレスリモートコントロールシステム構築

デジタルワイヤレストランスミッターの設定を、本機のディスプレイで確認しながら遠隔コントロールできます。また、付属の PC コントロールソフトを使用して PC から遠隔コントロールすることもできます。システムの規模や用途に応じて、以下の 2 種類のワイヤレスリモートコントロールシステムを構築することができます。

ST リモートシステム（スタンドアロンワイヤレスリモートコントロールシステム）

DWR-P01DN に内蔵されているアンテナを通じて、本機からトランスミッターを制御します。

NT リモートシステム（ネットワークワイヤレスリモートコントロールシステム）

別売のリモートコントロールユニット RMU-01 を使用することにより、最大で 82 台のトランスミッターのワイヤレスリモートコントロールが可能になるため、多チャンネルシステムに対応可能です。RMU-01 を複数台配置することにより、エリアの拡大も可能です。

ワイヤレススタジオによる運用状況の監視と各機器の遠隔コントロール

付属ソフトウェア Wireless Studio を使用することにより、運用に使用する各レシーバー、トランスミッター、RMU-01 のステータスを一括監視したり、各レシーバー、トランスミッターの設定を変更することができます。また、設定ファイルの保存、呼び出し、設定の一括編集ができます。

多彩な情報表示と操作性の向上

大型有機 EL 表示素子（Organic Light-Emitting Diode）の採用により、運用時に必要な多彩な情報表示が可能になりました。

大型表示窓と各メニューボタンによるスピーディーな操作性を実現しています。

また、運用上のトラブルが発生した場合にはフロントパネル上の ALERT インジケーターが点灯するため、迅速な対応が可能です。

2 系統の電源

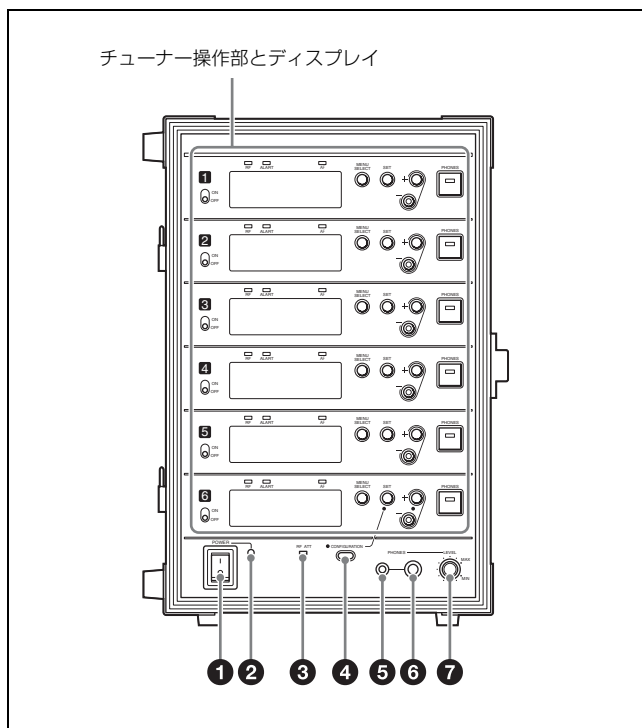
AC 100 V の電源電圧に対応。また、DC 入力も搭載しているため、さまざまな環境で 사용할 ことができます。

豊富なオーディオ出力

オーディオ出力は、チャンネルごとに 2 系統のアナログ出力と、レシーバーごとに 2 系統のデジタル出力を装備しています。

各部の名称と働き

フロントパネル



① POWER（電源）スイッチ

AC 電源入力の電源を入／切します。

ご注意

DC 電源の入力時には、この電源スイッチで電源を切ることとはできません。DC 電源を入力しているときに本機の電源を切るには、背面の DC 電源スイッチを OFF にしてください。

② POWER（電源）インジケータ

電源が ON のときに点灯します。

AC 電源で駆動しているときは緑色、DC 電源で駆動しているときは橙色で点灯します。

③ RF ATT（高周波アッテネーター）インジケータ

本機、または装着されている DWR-P01DN で RF アッテネーターが設定されていると点灯します。

◆ 詳しくは、「レシーバーの RF アッテネーター設定（ANT ATT）」（25 ページ）をご覧ください。

④ CONFIGURATION（コンフィギュレーション）ボタン

本機に関わる設定を変更するときに使用します。

CONFIGURATION ボタンを押すと、チューナー 6 のディスプレイ部に設定項目が表示されます。

設定を変更する場合は、チューナー 6 の + / - ボタン、SET ボタンを使用します。

⑤ PHONES（ヘッドホン）端子（ステレオミニジャック）

別売のヘッドホン接続して、PHONES スイッチ（チューナー操作部 ⑤）で選択したチューナーの出力をモニターすることができます。

ご注意

モノラルミニプラグは接続しないでください。

⑥ PHONES（ヘッドホン）端子（ステレオ標準ジャック）

別売のヘッドホン接続して、PHONES スイッチ（チューナー操作部 ⑤）で選択したチューナーの出力をモニターすることができます。

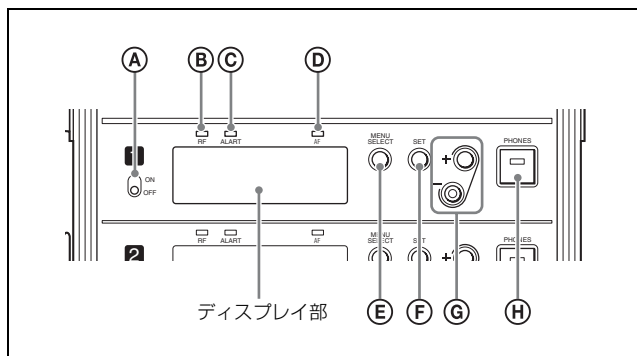
ご注意

モノラル標準プラグは接続しないでください。

⑦ PHONES LEVEL（ヘッドホン音量調節）つまみ

PHONES 端子から出力する音量を調節します。

チューナー操作部



① POWER ON/OFF（各チューナーの電源）スイッチ

対応するスロットに取り付けられたレシーバーの各チューナーの電源を ON/OFF します。

② RF（高周波）インジケータ

各チューナーの高周波入力レベルを表示します。

橙色点灯：80 dB μ 以上

緑色点灯：25 dB μ ～ 80 dB μ

赤色点灯：20 dB μ ～ 25 dB μ

消灯：20 dB μ 未満

㉟ ALERT（警告表示）インジケーター

本機に運用トラブルの可能性が発生したときに赤く点灯して警告します。

点灯する条件を変更することも可能です。

- ◆ 警告が発生する具体的な条件や点灯する条件の設定について詳しくは、「アラート機能（ALERT FUNCTION）」（28 ページ）をご覧ください。

㊱ AF（オーディオ入力）インジケーター

トランスミッターに入力するオーディオ信号が基準レベルを超えると緑色に点灯し、ひずみはじめる 3 dB 前になると赤く点灯します。

㊲ MENU SELECT（メニュー選択）ボタン

ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り替えます。

㊳ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を変更したり、調整した値を決定したりします。

㊴ + または - ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

㊵ PHONES（ヘッドホン出力選択）スイッチとインジケーター

スイッチを押すと、スイッチ上のインジケーターが点灯し、対応するチューナーの出力をヘッドホンでモニターすることができます。

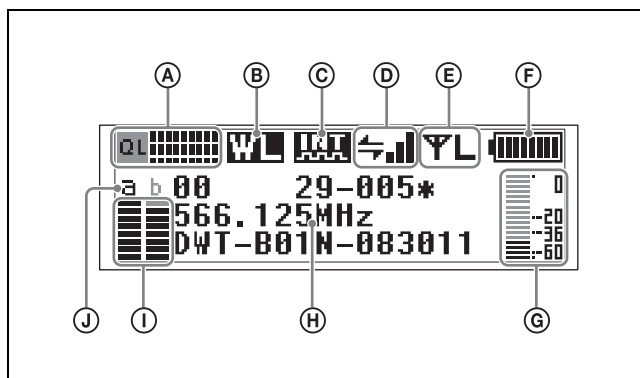
もう一度押すと、インジケーターが消え、ヘッドホン出力は中止します。

メニュー設定により、選択したチューナーのみ出力するか、複数のチューナーのミックス出力とするかを選ぶことができます。

- ◆ 詳しくは、「PHONES 出力の設定（PHONES OUTPUT）」（28 ページ）をご覧ください。

ディスプレイ部

以下のイラストでは、メニュー画面に入る前の状態（トップ画面）の表示内容を示しています。トップ画面は、レシーバーとしての情報表示だけでなく、トランスミッターからメタデータで送られてくる情報も表示するため、運用監視画面として使用できます。



㊶ QL（受信品質）メーター

受信データの品質をメーター表示します。一定の時間内にデータエラーが多く発生した場合には、バーグラフの高さが低くなります。

本機とトランスミッターが離れて RF 信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合などに起こる受信信号の品質の悪化を監視することができます。

㊷ レシーバー帯域表示

スロットに取り付けられたレシーバーの受信帯域を表示します。

㊸ デジタル出力同期表示

DIGITAL OUT 端子から出力される信号の同期状態を表示します。

INT：内部クロックと同期している

EXT：WORD SYNC IN 端子から入力された信号と同期している

㊹ Cross Remote コンディション表示

ペアリングされたトランスミッターとの通信状況を 4 段階で表示します。

📶：通信状況が良好

📶：通信状況がやや良好

📶：通信状況がやや良くない

📶：通信状況が良くない

📶：ペアリングされたトランスミッターと通信できない

ご注意

レシーバーの RF REMOTE 機能（23 ページ）を OFF にしている場合、このアイコンは表示されません。

㊺ 送信電力表示

トランスミッターで設定された送信電力レベルを表示します。この設定は TRANSMITTER メニュー（22 ページ）で変更できます。

📶 H：50 mW で送信しています。

📶 M：10 mW で送信しています。

📶 L：1 mW で送信しています。

ご注意

送信電力表示は送信機の仕様により異なります。この表示は DWT-B01N または DWM-02N と組み合わせて使用している場合の例です。

- ◆ トランスミッターの設定変更について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」（29 ページ）をご覧ください。

⑤ 電池残量表示

受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量を8段階で表示します。

また、電池残量が30分以下になると表示が点滅します。電池残量表示が点滅を始めたら、早めにトランスミッターの電池をすべて新しいものに交換してください。

ご注意

電池残量表示が点滅し始める時期は、使用環境によって異なります。

◆ トランスミッターの電池交換について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑥ オーディオレベルメーター

トランスミッターに入力されたオーディオ信号のレベルを表示します。

トランスミッターの基準入力レベル以下の入力を示すセグメントは、薄く表示されます。

トランスミッターの基準入力レベルが「MIC」に設定されている場合： - 36 dBFs 以下を示すセグメントが薄く表示
トランスミッターの基準入力レベルが「LINE」に設定されている場合： - 20 dBFs 以下を示すセグメントが薄く表示

◆ ピーク表示の解除方法について詳しくは、「AF ピークレベルのホールド時間の設定 (AF PEAK HOLD)」(28 ページ) をご覧ください。

④ 受信チャンネル情報

受信情報とトランスミッター名を表示します。レシーバーが取り付けられていないチューナーは表示されません。

1 行目：グループとチャンネル

2 行目：チャンネルの周波数

3 行目：トランスミッターの名前と SLEEP 状態

① RF (受信電波) レベルメーター

ANTENNA a/b IN 端子から入力された受信電波のレベルをメーター表示します。入力レベルにより点灯するゲージの数が変わります。

1 目盛り：10 dB μ 以上

2 目盛り：20 dB μ 以上

3 目盛り：30 dB μ 以上

4 目盛り：40 dB μ 以上

5 目盛り：50 dB μ 以上

6 目盛り：60 dB μ 以上

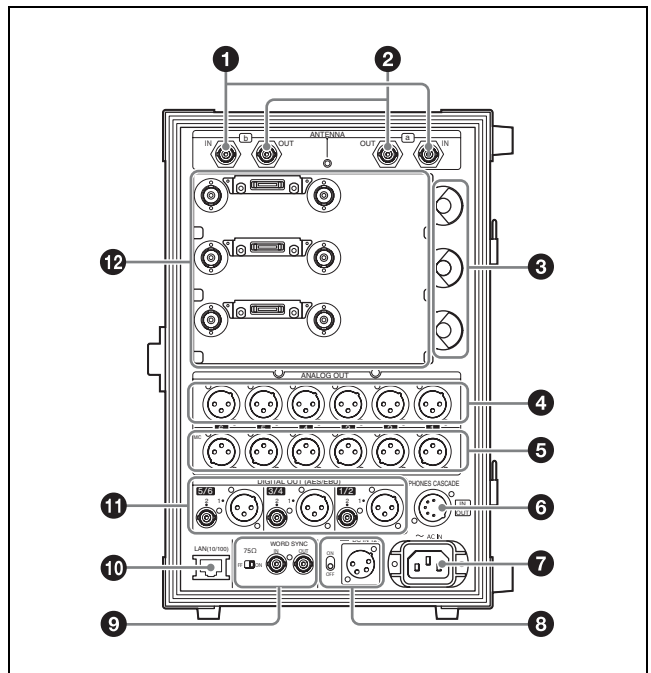
7 目盛り：70 dB μ 以上

8 目盛り：80 dB μ 以上

⑦ アンテナ選択表示

DWR-P01DN のダイバーシティ機能によって受信選択されているアンテナ入力を表示します。

リアパネル



① ANTENNA a/b IN (アンテナ a/b 入力) 端子 (BNC-R)

a/b IN 端子それぞれに、グランドプレーンアンテナ AN-57 やアンテナブースター WB-01、付属のホイップアンテナを取り付けます。

アンテナに供給する電源は、メニュー操作で DC 9 V/12 V の切り換えが可能です。電源を必要としないアンテナを接続する場合には、電源供給をオフにすることもできます。

◆ 詳しくは、「アンテナへの DC 電源供給設定 (ANT DC OUT)」(27 ページ) をご覧ください。

また、接続形態に応じてアンテナのアッテネーターの設定もメニューから可能です。

◆ 詳しくは、「アンテナ入力のアッテネーター設定 (PB ANT ATT a/b)」(27 ページ) をご覧ください。

ご注意

- この端子をショートさせないでください。ショートすると、アンテナ DC 出力が遮断されます。復帰させるには電源を OFF/ON してください。
- 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない PB-01 は、PB ANT ATT a/b を「0dB」、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

アンテナゲインとケーブル損失について

本機にブースター付きのアンテナを接続した場合、アンテナのゲインがアンテナと本機の間と同軸ケーブル損失を上回っていると、RF 入力レベルが本機の許容範囲を超えるおそれがあります。

本機でアンテナのアッテネーターを設定のうえ (0dB、5dB または 10dB) (27 ページ)、以下の計算式が成立するようにケーブル損失を設定してください。

本機の RF インジケータは 80 dB μ (0 dB μ = 1 μ V_{EMF}) 以上の入力で橙色点灯となりますので、目安としてください。

アンテナブースターのゲイン – アンテナと本機間のケーブル損失 – アッテネーター設定 (dB) = 0 dB 以下

ケーブル損失の目安 (TV WS 帯および 1.2 GHz 帯)

ケーブル長 (m)	ケーブル損失 (dB) (上段: TV WS 帯使用時、 下段: 1.2 GHz 帯使用時)		
	汎用タイプ	低損失タイプ	
	3D-2V	5D-2V	5D-FB
10	4.1	2.6	1.8
	5.2	3.5	2.3
30	12.2	7.9	5.4
	15.6	10.5	6.9
60	24.3	15.8	10.7
	31.2	21	13.8
100	40.5	26.4	17.9
	52	35	23

◆ アンテナブースターのゲインについては、ご使用になるアンテナに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ケーブルのメーカーによって、ケーブル損失には多少の差があります。
- ANTENNA a/b IN 端子のインピーダンスは、定格 50 Ω です。75 Ω のケーブルを使用すると、通常は上表の数値よりも数 dB 低い値になります。

② ANTENNA a/b OUT (アンテナ a/b 出力) 端子 (BNC-R)

a/b 端子それぞれに PB-01 を接続し、最大 3 台までカスケード接続することができます。カスケード接続する際は、長さが 1 m 以下のケーブルを使用してください。

③ レシーバーロックつまみ

各スロットに取り付けられたレシーバーを固定します。

◆ レシーバーの固定のしかたについて詳しくは、「レシーバーを取り付ける」(10 ページ) をご覧ください。

④ ANALOG OUT (LINE) (アナログ LINE 出力) 1/2/3/4/5/6 端子 (XLR)

ミキサーやアンプなどのアナログ入力端子に接続します。出力レベルは固定です。

⑤ ANALOG OUT (LINE/MIC) (アナログ LINE/MIC 出力) 1/2/3/4/5/6 端子 (XLR)

ミキサーやアンプなどのアナログ入力端子に接続します。メニュー操作で、出力レベルの切り換え (LINE/MIC) ができます。

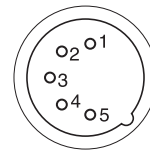
◆ 詳しくは、「アナログ LINE/MIC 出力の出力レベルの設定 (ANALOG OUT LEVEL)」(27 ページ) をご覧ください。

⑥ PHONES CASCADE (ヘッドホンカスケード) 端子 (XLR)

付属のカスケード接続ケーブルを使って、複数の PB-01 のヘッドホン出力をまとめてモニターする場合に接続します。

◆ 詳しくは、「ヘッドホンカスケード機能を使う」(12 ページ) をご覧ください。

ピン配列



- 1: GND
- 2: OUT(HOT)
- 3: OUT(COLD)
- 4: IN(HOT)
- 5: IN(COLD)

⑦ AC IN 端子

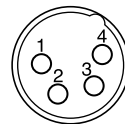
付属の AC 電源コードで AC 電源に接続します。

⑧ DC IN 端子 (XLR) と DC 電源スイッチ

外部の DC 12 V の電源に接続します。DC 電源スイッチを ON にすると DC 電源で駆動します。

本機の DC IN のピン配置は、下図のとおりです。

ピン配列



- 1: -
- 2: NC
- 3: NC
- 4: +

ご注意

正しい極性で接続してください。極性を間違えると、本機が壊れる可能性があります。

接続前に、必ず極性を確認してください。

本機は、AC 電源での動作を優先します。

AC 電源と DC 電源が同時に供給されている場合は、AC 電源が切れると自動的に DC 電源での駆動に切り替わります。

⑨ WORD SYNC IN/OUT (同期信号入出力) 端子 (BNC-R) と 75 Ω 終端スイッチ

デジタル出力を外部からの同期信号に同期して出力する場合は、WORD SYNC IN 端子に外部同期を入力します。

WORD SYNC IN 端子から入力した同期信号を、そのまま OUT 端子から出力します。

カスケード接続の終端にあたる PB-01 のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。

◆ WORD SYNC 端子の接続について詳しくは、「ワードクロックとオーディオの接続例」(16 ページ) をご覧ください。

⑩ LAN (イーサネット) (10/100) 端子 (RJ-45)

100Base-TX 方式のネットワーク接続用端子です。

Windows パソコンまたはハブと接続し、付属のソフトウェア「Wireless Studio」を使用して通信を行います。

パソコンとの接続には、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを 100 m 以内の長さで使用してください。接続に必要なケーブルの長さが 100 m を超える場合は、パソコンと本機との間にハブなどを接続してください。

ご注意

- LAN 端子には直接手を触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。
- 安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクタをこの端子に接続しないでください。接続については本書の指示に従ってください。

⑪ DIGITAL OUT (デジタル出力) 1/2、3/4、5/6 端子

レシーバーごとに、AES3 フォーマットのデジタル音声信号を出力します。ミキサーやアンプなどのデジタル入力端子に接続します。

⑫ レシーバースロット

各スロットに 1 台ずつ、最大 3 台の DWR-P01DN を取り付けることができます。

上段のスロットに取り付けるとチューナー 1/2 として、中段のスロットに取り付けるとチューナー 3/4 として、下段のスロットに取り付けるとチューナー 5/6 として動作します。

- ◆ レシーバーの取り付けかたについて詳しくは、「レシーバーを取り付ける」(10 ページ)をご覧ください。

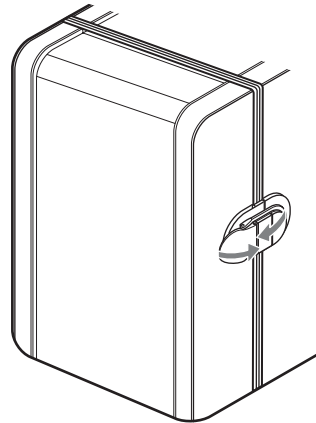
準備

カバーを取り外す

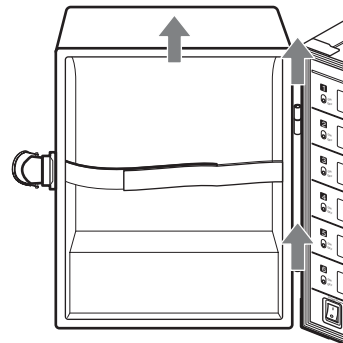
本機の前面と後面には、移動時の保護のためにカバーが付いています。

カバーは前後とも取り外しができ、内側には電源コードなどを収納できます。

- 1 レバーを押し、カバーの固定を解除する。

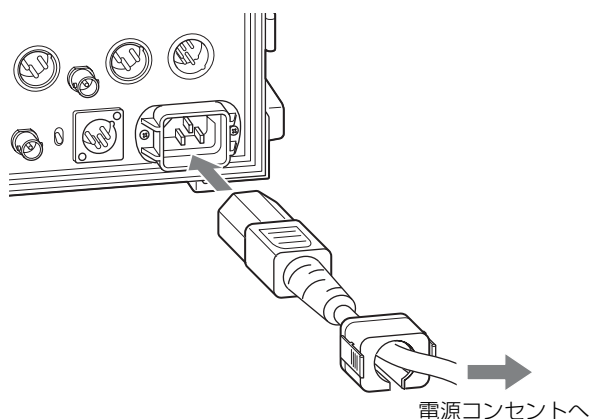


- 2 カバーを開き、持ち上げて外す。

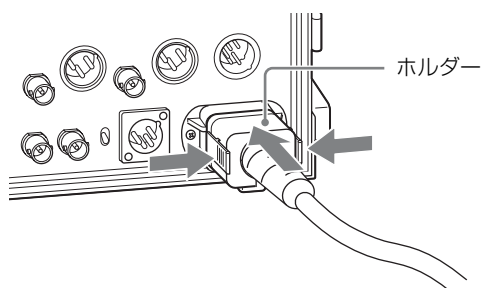


電源コードを接続する

- 1 ホルダー（付属）を取り付けた AC 電源コード（付属）を、AC IN 端子に差し込む。



- 2 ホルダーで AC 電源コードを固定する。



レシーバーを取り付ける

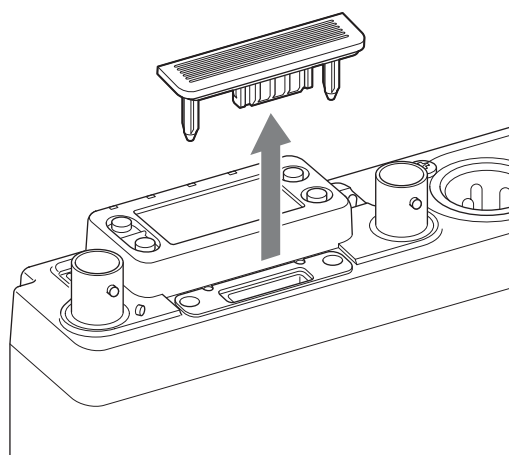
- 1 本機の電源スイッチを OFF にしてください。

ご注意

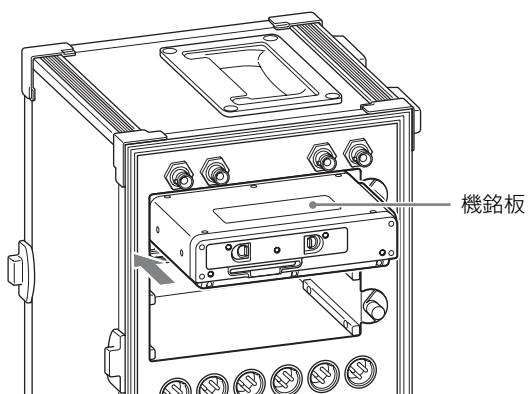
電源が ON のままでレシーバーを抜き差しすると、本機やレシーバーの故障の原因になります。

- 2 レシーバー上部の端子カバーを取り外す。

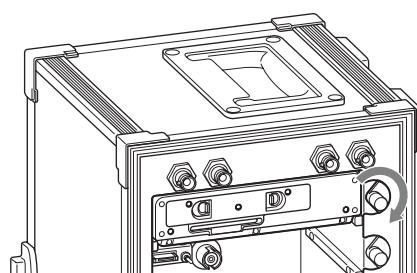
アンテナが接続されている場合はアンテナも取り外してください。



- 3 レシーバーの機銘板がある面を上にして、本機のレシーバースロットのレールに合わせて押し込む。



- 4 レシーバーロックつまみを回して固定する。



ご注意

レシーバーを本機に取り付ける前に、乾電池を外しておいてください。乾電池を長期間入れたままにしておくと、液漏れすることがあります。

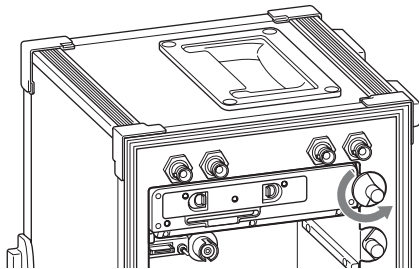
レシーバーを取り外すには

- 1 本機の電源スイッチを OFF にしてください。

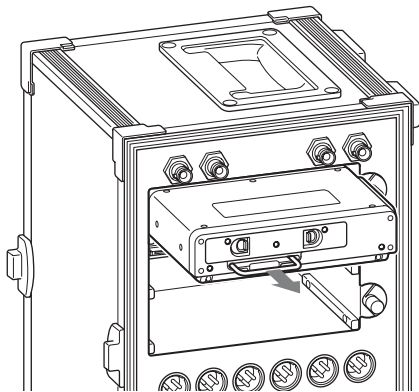
ご注意

電源がONのままでレシーバーを抜き差しすると、本機やレシーバーの故障の原因になります。

- 2** レシーバーロックつまみを回してゆるめる。



- 3** レシーバーの引き抜きフックを引き出し、レシーバースロットから引き抜く。



- 4** レシーバーに端子カバーを取り付ける。

ご注意

レシーバースロットから引き抜いたあとは、レシーバーの引き抜きフックを押し込んで元の位置に戻してください。

ヘッドホンカスケード機能を使う

付属のカスケード接続ケーブルを使って PB-01 を接続することで、複数台の PB-01 を一括でモニターすることができます。

カスケード接続ケーブル



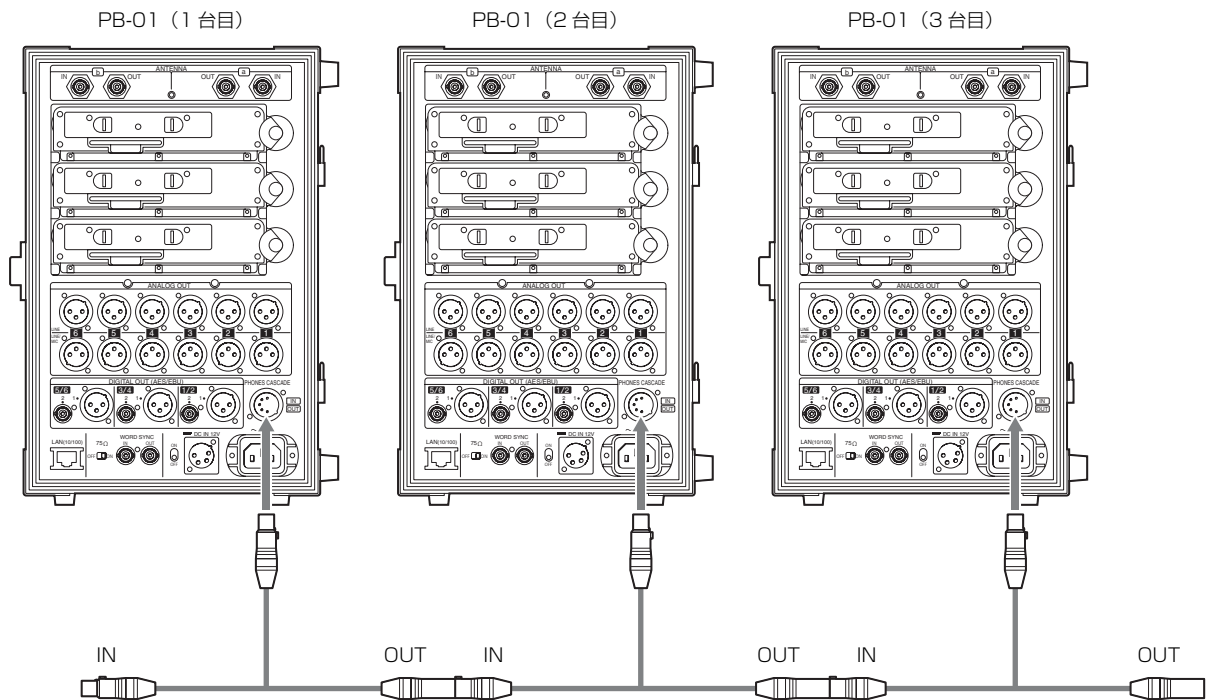
3 台接続の場合

カスケード接続時は、信号の流れる方向により、それぞれの PB-01 の PHONES 端子でモニターできる信号が異なります。

1 台目の PB-01：1 台目の PB-01 の音声のみモニターできます。

2 台目の PB-01：1 台目と 2 台目の PB-01 の音声をモニターできます。

3 台目の PB-01：3 台すべての PB-01 の音声をモニターできます。



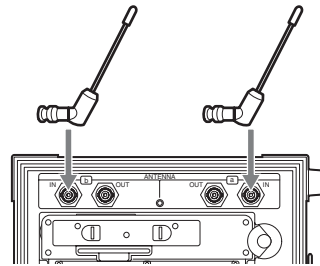
ご注意

- 同じカスケード接続ケーブルの入力端子と出力端子を接続しないでください。
- 先頭の PB-01 に接続されたケーブルの入力端子と、最終段の PB-01 に接続されたケーブルの出力端子を接続しないでください。
- カスケード接続する台数が増えると、ノイズフロアが上昇していきます。

システム構成例

本機では、構築したいシステムの規模や用途によって、以下のマルチチャンネルシステム、ST リモートシステム（3 ページ）、および NT リモートシステム（3 ページ）のシステムが構築可能です。

マルチチャンネルシステムに、リモートシステムを組み合わせることにより、運用の利便性が向上します。
各システムで使用できる機器と最大設置台数は、以下のとおりです。



ご注意

イーサネット経由で RMU-01 を認識すると、本機は自動的に NT リモートシステムモードに切り換わります。
RMU-01 を認識しない場合は、ST リモートシステムモードに切り換わります。
ワイヤレスリモートコントロール機能は、2.4 GHz 電波で本機や RMU-01 から変更命令を受けて、音声パケット内のメタデータで応答を行います。そのため、ワイヤレスリモートコントロール機能は、トランスミッターからの音声電波が届く範囲で使用してください。

	マルチチャンネルシステム	ST リモートシステム	NT リモートシステム
PB-01	1 ～ 14 台*	1 台	1 ～ 14 台*
DWR-P01DN	1 ～ 41 台	1 ～ 3 台	1 ～ 41 台
ソニーデジタルワイヤレストランスミッター	1 ～ 82 台	1 ～ 6 台	1 ～ 82 台
RMU-01	不要	不要	1 ～ 9 台
PC	不要	不要	1 ～ 6 台
Wireless Studio	受信システム、トランスミッター、RMU のステータス監視に使用可能		

* 同時に使用できる DWR-P01DN が最大で 41 台のため、本機を 14 台使用する場合はスロットに 1 つ空きができます。

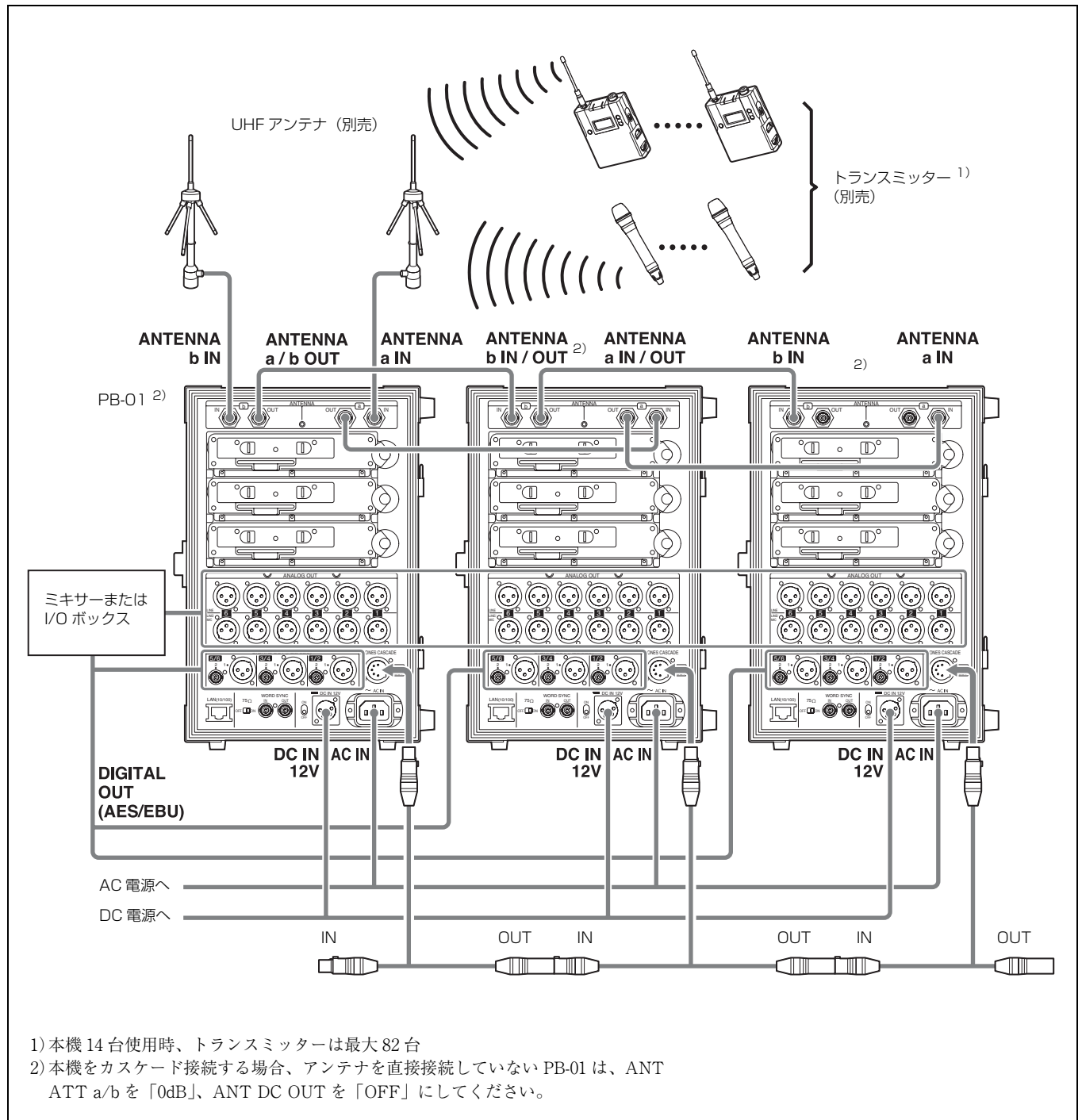
付属アンテナについて

本機の受信性能を最大限に生かすために、別売のグランドプレーンアンテナ AN-57 やアンテナブースター WB-01 などを使用して運用することをおすすめします。
ただし、サービスエリアが狭い場合には、付属のホイップアンテナを使用して運用することも可能です。付属のホイップアンテナで、ホワイトスペース帯およびラジオマイク専用帯（470 MHz ～ 714 MHz）、1.2 GHz 帯の混在運用が可能です。

ご注意

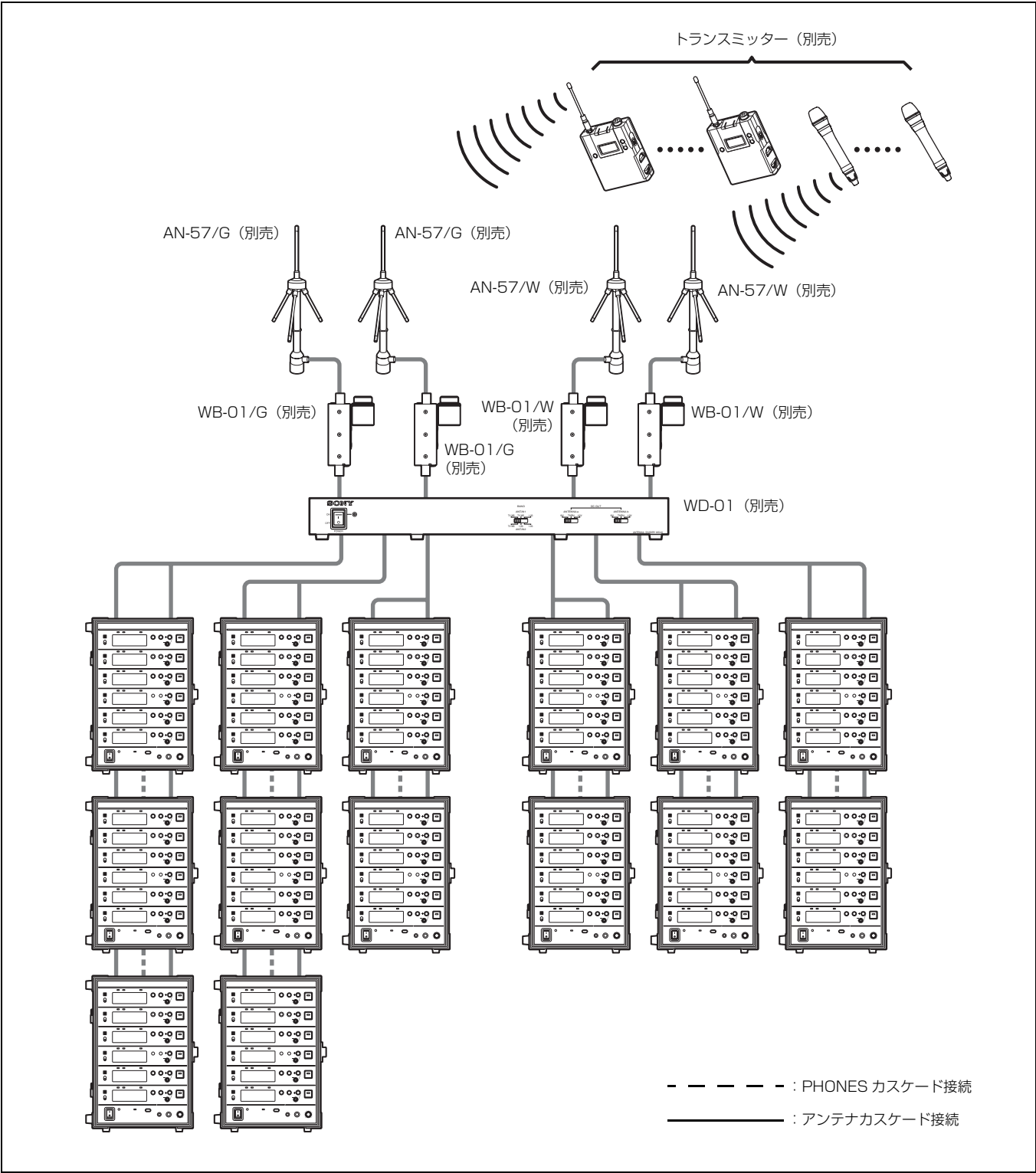
付属のホイップアンテナを使用する際には、サービスエリアの確認を十分行ってください。

マルチチャンネルシステムシステム構成例



アンテナディバイダー使用例

別売の WD-01 を介して、本機を合計 14 台（82 チャンネル）カスケード接続するシステム例



ワードクロックとオーディオの接続例

デジタルオーディオ出力を正しく運用するためには、サンプリングレートコンバーターが搭載された機器を本機の DIGITAL OUT 1/2（または 3/4、5/6）端子に接続するか、本機の WORD SYNC IN 端子にマスターワードクロック信号を入力して同期する必要があります。

マスターワードクロック信号を入力して同期するシステムには、次の 2 種類があります。

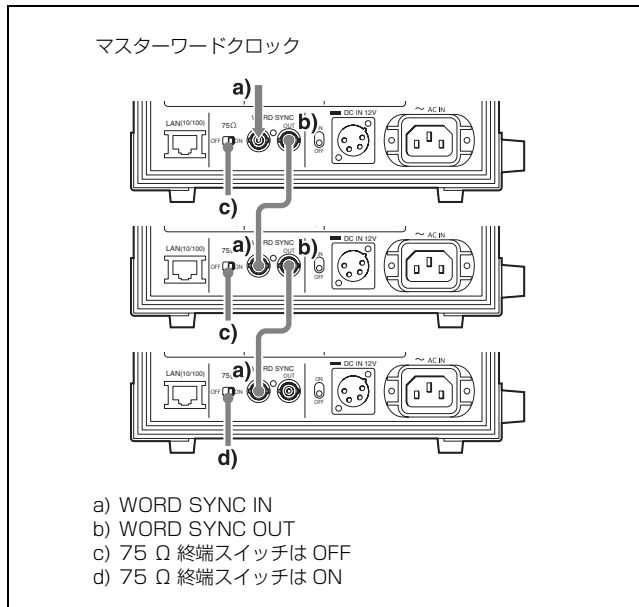
ご注意

接続する台数が多い場合には、カスケード接続はおすすめできません。ワードクロック分配器の使用をおすすめします。

同期システム例 1

マスターワードクロック信号を本機の WORD SYNC OUT 端子でカスケード接続するシステムです。

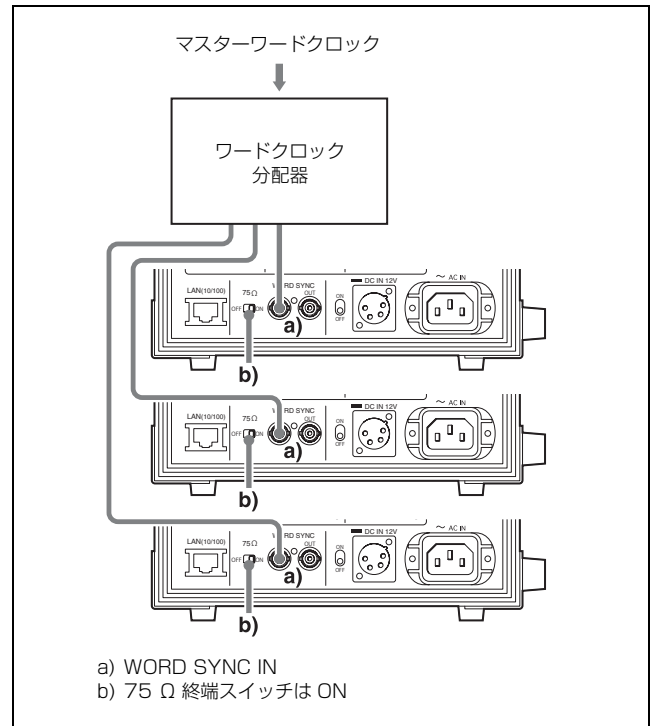
カスケード接続の終端にあたる PB-01 のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。



同期システム例 2

マスターワードクロック信号を分配器で分配し、それぞれの機器に接続するシステムです。

すべての PB-01 の 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。

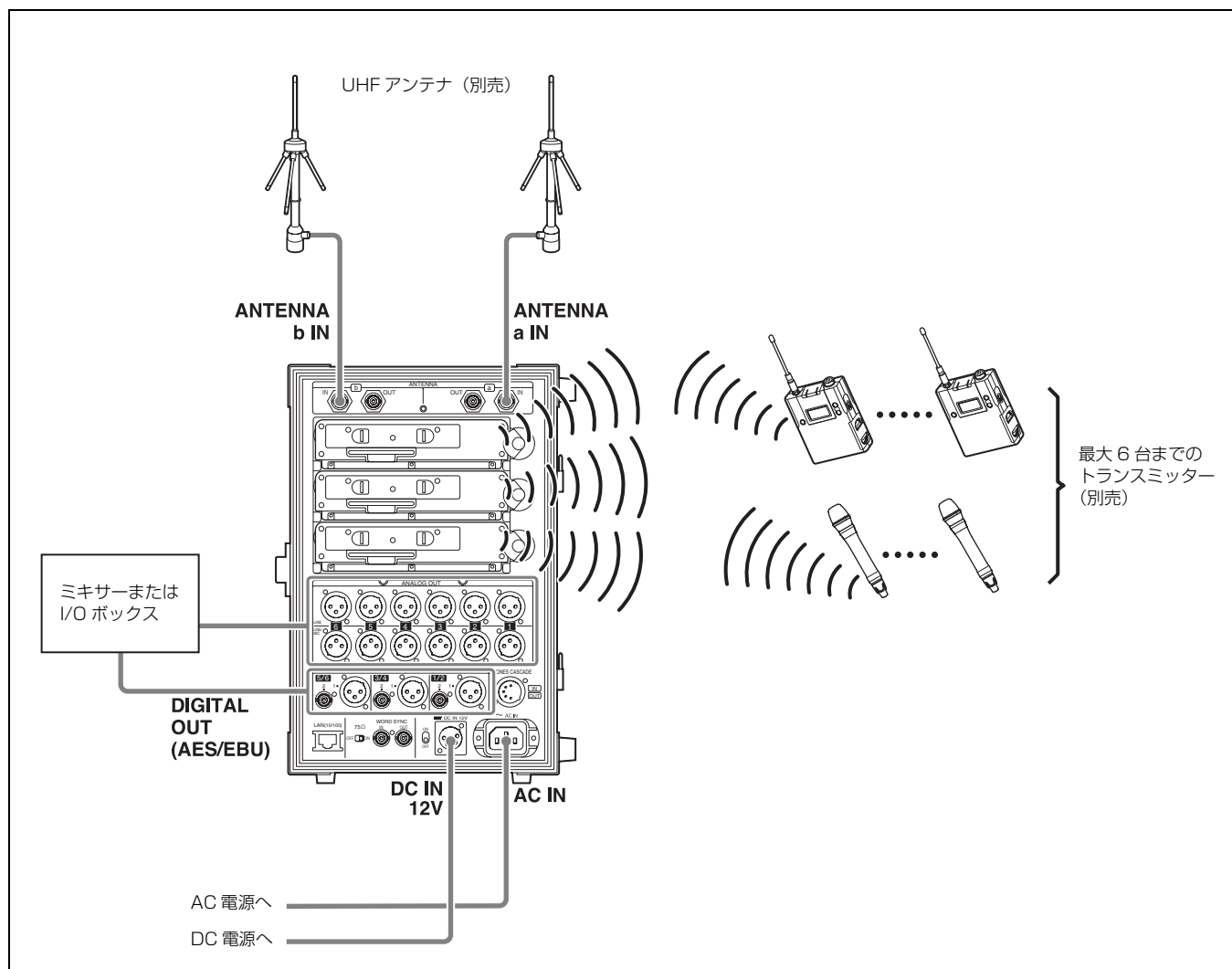


ST リモートシステムの例

DWR-P01DN の底面に内蔵されているアンテナで通信を行い、ワイヤレスリモートコントロール機能を動かします。

ご注意

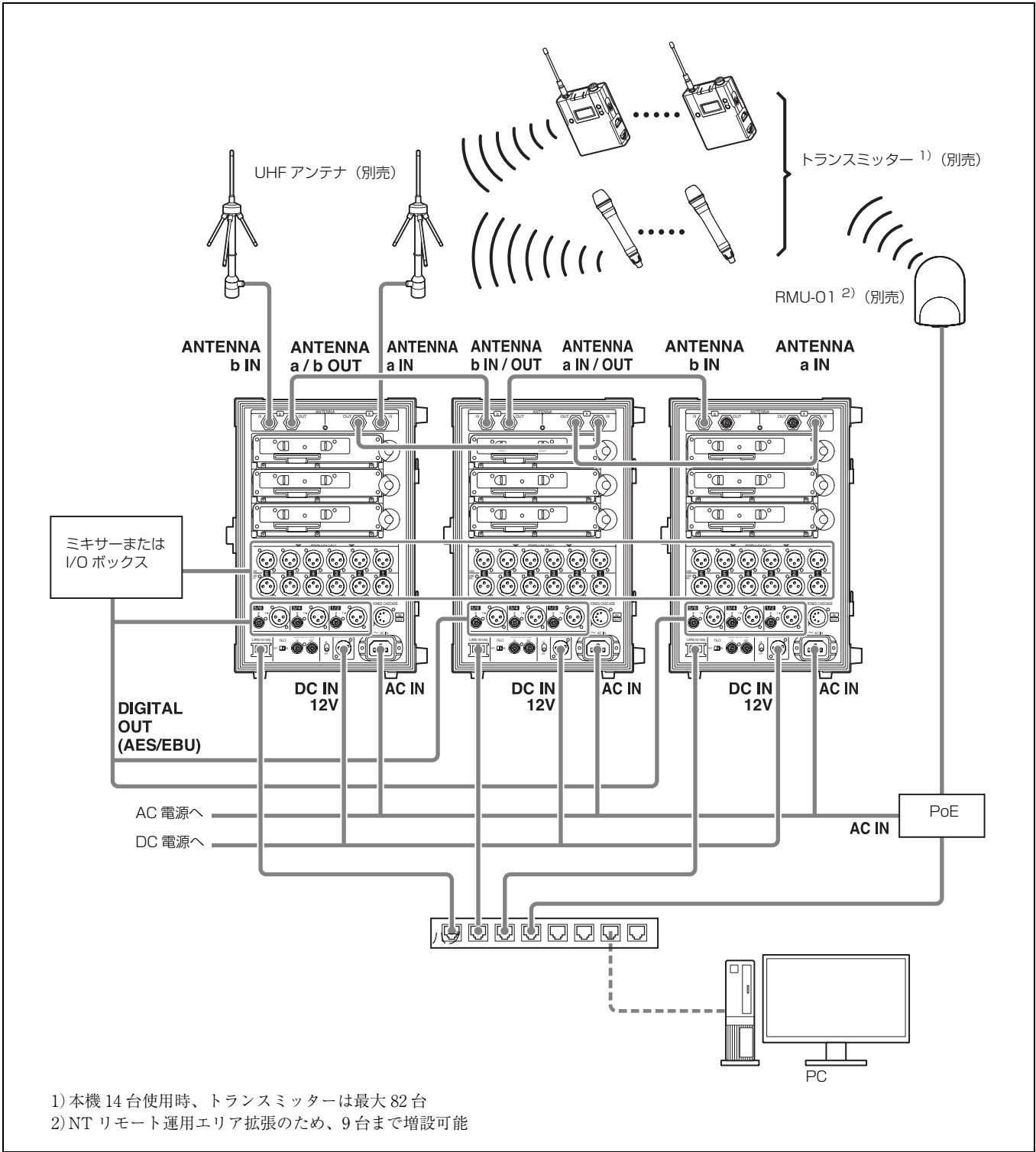
ST リモートでは、DWR-P01DN1 台につき 1 チャンネルの電波を使用します。このため、システム内のトランスミッターの台数が増えると通信電波が混雑し、リモートのレスポンスが遅くなる可能性があります。トランスミッターを 6 台以上ご使用になるシステムでは、RMU-01 を使用した NT リモートシステムをおすすめします。



NT リモートシステムの例

別売の RMU-01 を使い、1 台の RMU-01 あたり最大 82 台のトランスミッターを制御することが可能です。RMU-01 は、運用エリア拡大のために最大 9 台まで設置することができます。

◆ RMU-01 の設置方法については、RMU-01 の取扱説明書を参照してください。



メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

本機のメニューには次の 5 種類があります。

RECEIVER メニュー

チューナーごとの受信設定を行う機能が含まれるメニューです。

TRANSMITTER メニュー

各チューナーで通信しているトランスミッターの現在の設定を確認できるメニューです。

RF REMOTE メニュー

各チューナーのトランスミッターとのペアリング、およびワイヤレスリモートコントロール機能の基本設定を行うメニューです。

UTILITY メニュー

取り付けられている DWR-P01DN の設定が含まれるメニューです。
チューナーごとにメニューが表示され設定が可能ですが、ここでの設定では一台の DWR-P01DN の 2 つのチューナーの異なる設定をすることはできません。チューナー 1 と 2、チューナー 3 と 4、チューナー 5 と 6 でそれぞれ共通の設定になります。

CONFIGURATION メニュー

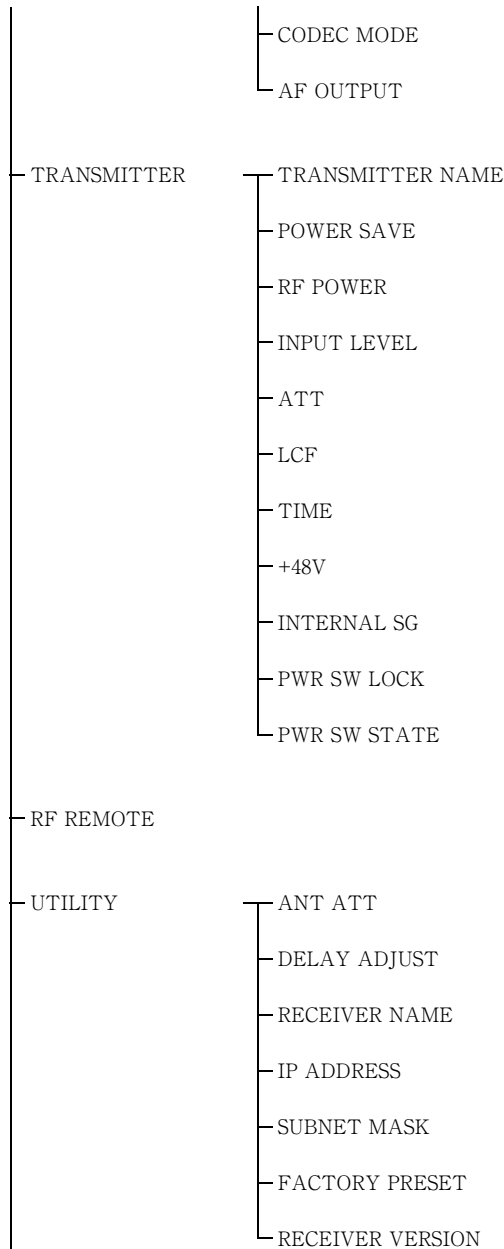
出力レベルやネットワーク機能、有機 EL ディスプレイの設定など、本機全体に関わる設定を行うメニューです。
CONFIGURATION メニューはチューナー 6 のディスプレイ部にのみ表示されますが、設定内容はすべてのチューナーに共通して反映されます。

メニューの階層

すべてのチューナーで表示・設定できるメニュー

MENU SELECT

- トップ画面
- RECEIVER
 - BAND
 - GP/CH
 - ACT CH SCAN
 - CLR CH SCAN
 - ENCRYPTION



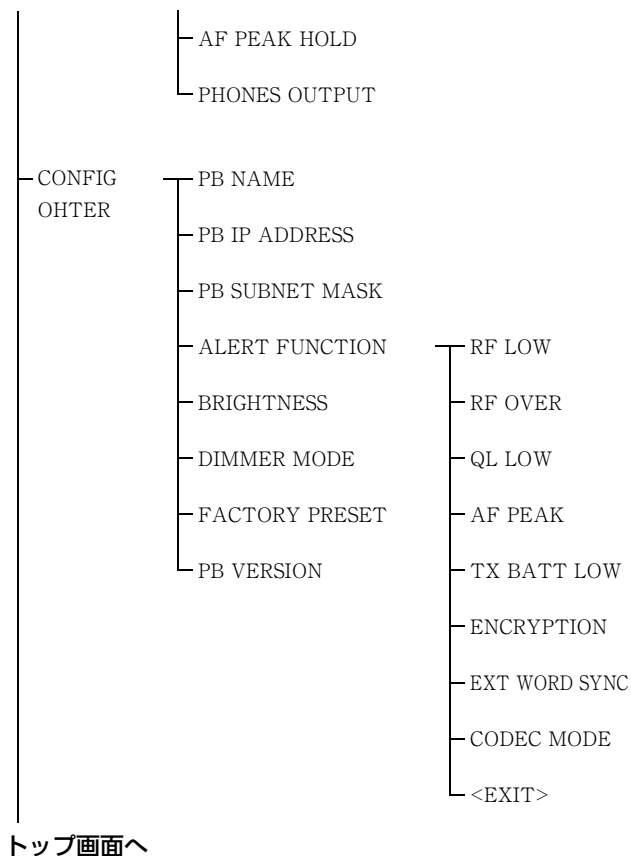
トップ画面へ

CONFIGURATION メニュー (チューナー 6 のみ)

CONFIGURATION ボタンを押すと、チューナー 6 のディスプレイ部にメニューが表示されます。

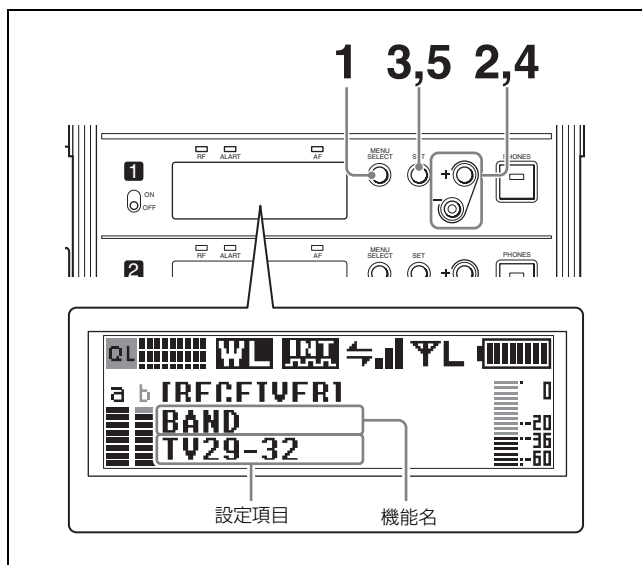
CONFIGURATION

- トップ画面
- CONFIG RF
 - PB ANT ATT a
 - PB ANT ATT b
 - ANT DC OUT
- CONFIG AUDIO
 - ANALOG OUT LEVEL
 - AES/EBU LVL @MIC
 - SYNC SOURCE



メニューの基本操作

チューナーごとの設定



- 1 MENU SELECT ボタンを押して、設定したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、トップ画面、RECEIVER、TRANSMITTER、RF REMOTE、UTILITY、トップ画面の順番で切り替わります。

- 2 +または-ボタンを押して、メニュー内の設定したい項目を表示させる。

+または-ボタンを押すごとに、表示される設定項目が変わります。

◆ 詳しくは、「メニューの階層」(19 ページ) をご覧ください。

- 3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

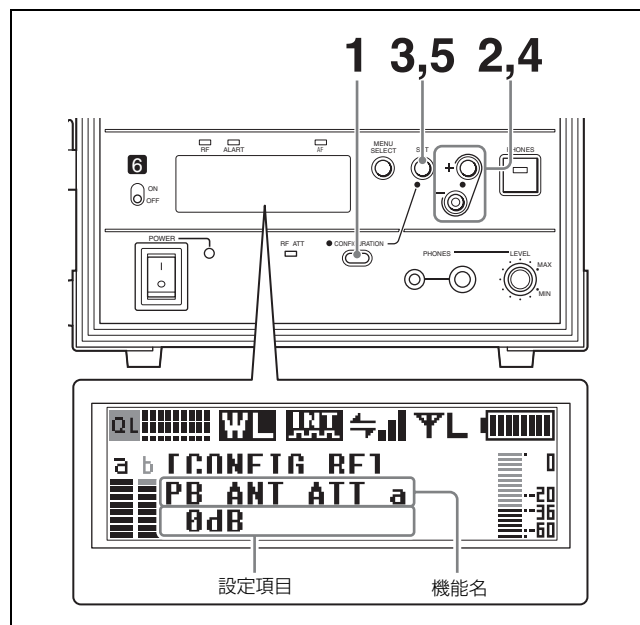
- 4 +または-ボタンを押して、設定を変更する。

- 5 SET ボタンを押して、変更内容を確定させる。

ご注意

チューナーの電源スイッチが OFF になっている場合、そのチューナーのメニューは表示されません。

本機の基本設定 (CONFIGURATION メニュー)



- 1 CONFIGURATION ボタンを押して、設定したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、トップ画面、RF、AUDIO、OTHER、トップ画面の順番で切り替わります。

- 2 チューナー 6 の+または-ボタンを押して、メニュー内の設定したい項目を表示させる。

+または-ボタンを押すごとに、表示される設定項目が変わります。

◆ 詳しくは、「メニューの階層」(19 ページ) をご覧ください。

- 3 設定項目が点滅するまでチューナー 6 の SET ボタンを長押しする。

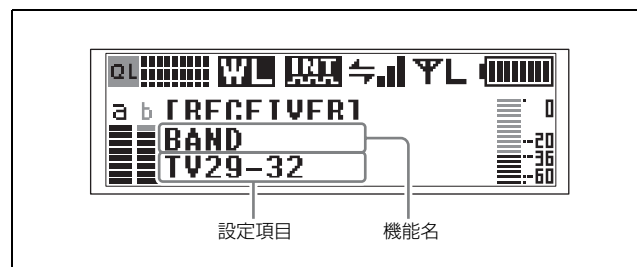
- 4 チューナー 6 の + または - ボタンを押して、設定を変更する。
- 5 チューナー 6 の SET ボタンを押して、変更内容を確認させる。

RECEIVER (レシーバー) メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(20 ページ) をご覧ください。

RECEIVER メニューは、各チューナーの機能を設定するメニューです。

◆ 機能の詳細については、DWR-P01DN の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ここでは、各機能と変更項目を説明します。

周波数帯域の選択 (BAND)

受信する周波数帯域を選択します。工場出荷時の設定は、DWR-P01DN 取扱説明書の「対応する周波数帯とチャンネル間隔」をご覧ください。

グループ／チャンネルの選択 (GP/CH)

受信するグループとチャンネルを設定します。工場出荷時の設定は、DWR-P01DN 取扱説明書の「対応する周波数帯とチャンネル間隔」をご覧ください。

アクティブチャンネルスキャン機能 (ACT CH SCAN)

アクティブチャンネルスキャンを実行します。

クリアチャンネルスキャン機能 (CLR CH SCAN)

クリアチャンネルスキャンを実行します。

秘匿通信機能 (ENCRYPTION)

秘匿通信機能を設定します。

SECURE KEY：暗号鍵方式で設定する。

PASSWORD：パスワード方式で設定する。

OFF：秘匿通信機能を使わない。

オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)

オーディオコーデックモードを設定します。
ペアリング済みのトランスミッターがある場合は、トランスミッター側のオーディオコーデックモードも同時に切り替わります。

MODE1：第一世代の DWX シリーズと互換性のあるオーディオコーデックモードです。

MODE2：遅延時間を低減したオーディオコーデックモードです。MODE1 と比較して、音質も改善しています。通常の環境下では、このモードでの使用を推奨しています。

MODE3：安定した伝送性能を優先したオーディオコーデックモードです。不測の妨害波によるノイズや音切れを抑制する信号処理を追加し、より信頼性の高い伝送を実現しています。

送受信時の音声遅延時間

それぞれのモードの送信機側、受信機側を合わせた音声遅延時間は以下のとおりです。

アナログ出力

MODE1：3.4 msec

MODE2：1.5 msec

MODE3：4.0 msec

デジタル出力

MODE1：3.4 msec

MODE2：2.5 msec

MODE3：4.9 msec

オーディオ出力の設定 (AF OUTPUT)

チューナーのオーディオ出力の制御 (MUTING/ UNMUTING) を行います。制御の対象は、ANALOG OUT (LINE) 1/2/3/4/5/6 端子、ANALOG OUT (LINE/ MIC) 1/2/3/4/5/6 端子、および DIGITAL OUT (デジタル出力) 1/2、3/4、5/6 端子です。PHONES 端子からのヘッドホンモニターは制御の対象外です。

UNMUTING：レシーバーチャンネルのオーディオ出力をミュートしませんが。

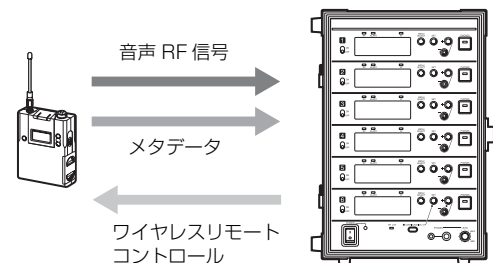
MUTING：レシーバーチャンネルのオーディオ出力をミュートします。ミュート中は、トップ画面のトランスミッター名を表示する部分に「MUTING」と「トランスミッター名」が交互に表示されます。

TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニュー

トランスミッター仮想メニューでは、トランスミッターから受信したメタデータをディスプレイに表示することで、トランスミッターの状態を確認することができます。

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(20 ページ) をご覧ください。
- ◆ トランスミッターの設定情報の変更方法については詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(29 ページ) をご覧ください。

ソニーのデジタルワイヤレストランスミッターは、デジタル音声データだけでなくトランスミッター本体の設定情報もメタデータとして送信します。



で注意

トランスミッターが電源 OFF またはサービスエリア外にいる場合は、設定項目表示のかわりに「NO DATA」と表示されます。またトランスミッターに機能が搭載されていない場合は「NO FUNCTION」と表示されます。

ここでは、表示される設定情報を説明します。

トランスミッター名称の表示 (TRANSMITTER NAME)

トランスミッターの名称の設定を表示します。

省電力設定の表示 (POWER SAVE)

トランスミッターの省電力設定を表示します。

送信電力設定の表示 (RF POWER)

受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)

トランスミッターの入力レベル設定を表示します。

アッテネーターの表示 (ATT)

トランスミッターのアッテネーター設定を表示します。

ローカットフィルター設定の表示 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を表示します。

累積使用時間の表示 (TIME)

トランスミッターの累積使用時間を表示します。

+48 V 電源設定の表示 (+48V)

トランスミッターの +48 V 電源設定を表示します。

内蔵信号発生表示 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号を発生させているかを表示します。

POWER スイッチのロック (PWR SW LOCK)

トランスミッターの POWER スイッチロック機能の設定を表示します。

POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)

トランスミッターの POWER スイッチの状態を表示します。

RF REMOTE メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(20 ページ) をご覧ください。

本機は、TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニューでトランスミッターの設定 (ローカットフィルターやアッテネーター操作、省電力設定など) をワイヤレス制御できるワイヤレスリモートコントロール機能を搭載しています。これにより、現場での運用や管理がより簡単に行えます。

DWR-P01DN に内蔵されているワイヤレスリモートコントロールには、デジタルワイヤレスオーディオの無線伝送帯域に影響を与えない 2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 方式を採用しています。

この機能は、RF REMOTE メニューで制御したいトランスミッターと本機をペアリングすることにより使用可能になります。

Cross Remote を使う (RF REMOTE)

本機と本機と組み合わせて使うトランスミッターとの間で、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

OFF : ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。

ON : すでにペアリングされているトランスミッターとの間でワイヤレスリモートコントロール機能を使用する。

PAIRING : トランスミッターとのペアリングを行う。

ペアリングを行う

ペアリングとは、ワイヤレスリモートコントロール機能で操作を行いたいトランスミッターと本機の対 (ペア) を作ることです。

以下の手順で設定します。

- 1 RF REMOTE メニューで設定値が点滅するまで SET ボタンを長押しし、+ または - ボタンを押して PAIRING を選択したら SET ボタンを押す。

「START PAIRING?」とメッセージが表示されます。

- 2 制御したいトランスミッターをペアリングモードに設定する。

◆ トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 3 +または-ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押す。

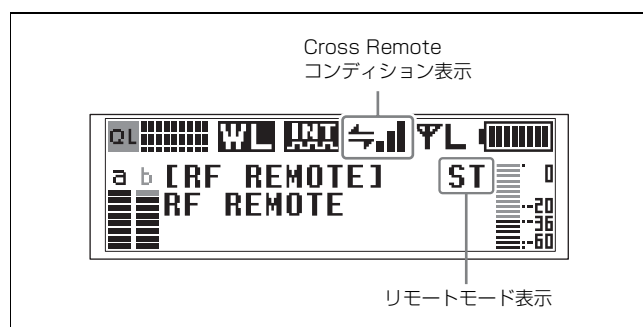
トランスミッターの検索を開始し、ディスプレイにペアリング可能なトランスミッター名が表示されます。

検索中に本機の操作ボタンを押すと、ペアリングモードはキャンセルされます。

- 4 +または-ボタンを押して、表示されたトランスミッターの名前の中からペアリングしたいトランスミッターを選択し、SET ボタンを押して決定する。

選択したトランスミッターとの通信が始まり、ディスプレイにワイヤレスリモートコントロールコンディション表示が表示されます。

コンディションレベル () が上がり、リモートコントロールができるようになります。



ご注意

- 本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。
禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。
- ペアリング時には、トランスミッターとレシーバーのオーディオコーデックモードは設定されません。
事前にオーディオコーデックモードを合わせるか、ペアリング後に Cross Remote でトランスミッターのオーディオコーデックモードを設定してください。

Cross Remote コンディション表示について

ワイヤレスリモートコントロールの電波状態を 4 段階で表示します。

-  : 通信状況が良好
-  : 通信状況がやや良好
-  : 通信状況がやや良くない
-  : 通信状況が良くない
-  : ペアリングされたトランスミッターと通信できない

RF REMOTE メニュー (23 ページ) で RF REMOTE を OFF にしている場合には、このアイコンは表示されません。

リモートのモードを表示する

本機が ST リモート、NT リモートどちらのモードで動作しているのかを表示します。(表示のみ)

NT : RMU-01 を認識して NT リモートで動作しています。

ST : ST リモートで動作しています。

前回のペアリング設定で Cross Remote を使うには

トランスミッターの電源を ON にしたときに、本機のトップ画面にワイヤレスリモートコントロールコンディションアイコンが表示されていれば、そのまま使用できます。
アイコンが表示されていない場合には、トランスミッターまたは本機の RF REMOTE 設定が ON になっているか確認してください。

ご注意

- RF REMOTE メニューの RF REMOTE を OFF から ON にしても、前回ペアリングされていたトランスミッター以外との通信はできません。別のトランスミッターとワイヤレスリモートコントロールを使うには、あらためてそのトランスミッターとペアリング設定してください。
- 複数のトランスミッターとペアリングすることはできません。
- ST リモートシステムでペアリングを行った場合でも NT リモートシステムでワイヤレスリモートコントロールを使うには、再ペアリングが必要になります。

ペアリングが完了しているときに本機で設定できるトランスミッターの機能

- グループ / チャンネル設定
- トランスミッター名称の設定
- 省電力設定
- RF 送信電力設定
- オーディオ入力レベル設定
- ローカットフィルター設定
- トランスミッターの累積使用時間のリセット
- + 48V 設定
- オーディオコーデックモード設定
- 内蔵信号設定
- POWER スイッチのロック設定

◆ トランスミッターの設定方法について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(29 ページ) をご覧ください。

Cross Remote を停止するには

RF REMOTE メニューで RF REMOTE を選択し、OFF にします。

Cross Remote に関するご注意

DWR-P01DN に内蔵されているワイヤレスリモートコントロールは 2.4 GHz 帯を使用しているため、他の機器からの電波干渉を受ける可能性があります。

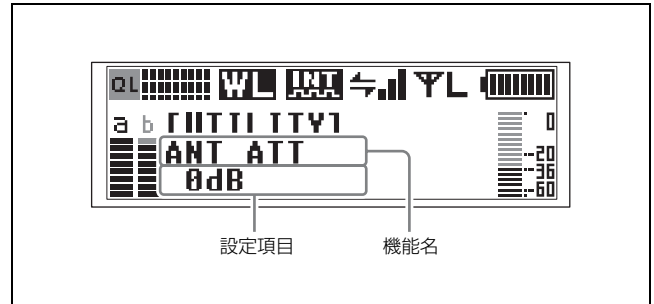
- ペアリングが完了しない場合（「Pairing fail」と表示された場合）は、再度ペアリングを行ってください。
一定時間内にトランスミッターとレシーバーの通信が完了しなかったことが考えられます。
近くで他のレシーバーがペアリングを行っている場合、完了しづらくなることがあります。
- リモートコントロールがつながりにくい場合は、RF REMOTE 機能をいったん OFF にしてから ON にし、再度トランスミッターと接続し直すことにより改善（干渉の少ないチャンネルに移動）する場合があります。

UTILITY メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（20 ページ）をご覧ください。

UTILITY メニューは、レシーバーの基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。

ここでは、各機能と変更項目を説明します。



レシーバーの RF アッテネーター設定 (ANT ATT)

レシーバー内部の RF アッテネーターを設定します。ANT a/b 端子共通で設定されます。

音声遅延時間表示とチャンネル間の遅延差補正 (DELAY ADJUST)

デジタルワイヤレストランスミッターとデジタルワイヤレスレシーバーの間で通信をする際、各機器で行う音声信号処理によって音声が遅延します。

音声遅延時間の表示

本機は、デジタルワイヤレストランスミッターからメタデータで送られてくる送信機の遅延時間と、本機の遅延時間の合計をレシーバーチャンネルごとに表示します。

ミキサーやディレイプロセッサなどで遅延時間の調整を行う際には、目安にしてください。

表示例：

1CH D : 2.5ms , A : 1.5ms

2CH D : 2.5ms , A : 1.5ms

D : DIGITAL OUT

A : ANALOG OUT

レシーバーチャンネル間の遅延時間補正

1 台のレシーバーに使用する 2 台のデジタルワイヤレストランスミッターのモデルが異なる場合は、2 つのレシーバーチャンネルの間で遅延時間に差が出る場合があります。その場合、本機能を ON にすると、遅延時間が大きいほうのレシーバーチャンネルに合わせてもう一方の遅延時間を補正することができます。

ミキサやディレイプロセッサなどで遅延時間を補正する場合は、OFF に設定したままでお使いください。

ご注意

DELAY ADJUST は、1 台のレシーバーに対応した 2 つのチャンネル間の遅延時間を補正します。すべてのスロットで DELAY ADJUST 機能を ON にしても、異なるスロットに装着されたレシーバーのチューナー同士の遅延時間を合わせることはできません。

レシーバーの名前の設定 (RECEIVER NAME)

16 文字以内でレシーバーに名前を付けることができます。

入力方法

1 RECEIVER NAME 画面で、設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 + ボタンを押して文字リストを表示する。

3 + または - ボタンで希望の文字を選び、SET ボタンを押す。

表示されている文字列の最後に選択した文字が追加されます。

4 入力が終わったら、SET ボタンを押して入力内容を確認する。

ご注意

- 表示されている文字列の最後の文字を削除する場合は、- ボタンを押してください。
- 文字列の途中に文字を挿入したり、途中の文字を削除することはできません。

レシーバーの IP アドレスの設定 (IP ADDRESS)

レシーバーの IP アドレスを設定します。

IP アドレスを変更した際は、本機の電源を一旦オフにしてから再起動させてください。

レシーバーのサブネットマスクの設定 (SUBNET MASK)

レシーバーのサブネットマスクを設定します。

補足

IP アドレス、サブネットマスクについて

- 一般回線をネットワーク接続しない場合には、以下のプライベートアドレスを設定してください。* には、ネットワーク内で重複しない任意の値を設定してください。

IP Address : 192.168.0.*

Subnet Mask : 255.255.255.0 (固定)

- 一般回線を使用する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

ご注意

- IP ADDRESS の設定を変更した場合、NT リモートのペアリングは無効となります。再度ペアリングをしてください。
- 本機および収納する 3 台のレシーバーには、それぞれネットワーク内で重複しない任意の IP アドレスを設定してください。

レシーバーを工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)

レシーバーの各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。この項目を選択すると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。
+ または - ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すとレシーバーの設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

本機の設定は変更されません。

本機の設定を工場出荷時の状態に戻すときは、CONFIGURATION メニューの FACTORY PRESET を実行してください。

レシーバーのソフトウェアバージョンの表示 (RECEIVER VERSION)

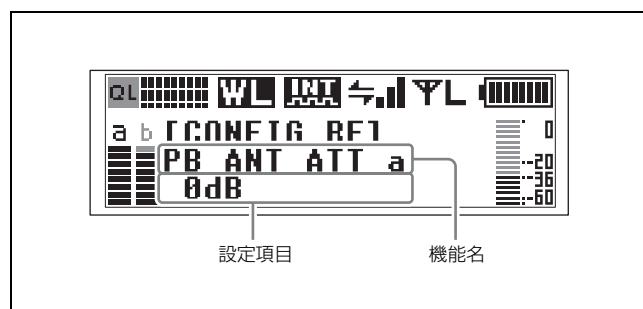
レシーバーのソフトウェアバージョンを表示します。

CONFIGURATION メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(20 ページ)をご覧ください。

CONFIGURATION メニューは、ディスプレイに関する設定などの本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。

ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。



受信に関する機能 (CONFIG RF サブメニュー)

アンテナ入力のアッテネーター設定 (PB ANT ATT a/b)

アンテナ入力のアッテネーターを設定します。ANTENNA a/b IN 端子に対して個別に設定できます。
0dB/5dB/10dB

ご注意

本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない PB-01 は、PB ANT ATT a/b を「0dB」にしてください。

アンテナへの DC 電源供給設定 (ANT DC OUT)

ANTENNA a/b IN 端子に接続されたアンテナへの DC 電源供給を設定します。ここでの設定は、ANTENNA IN a/b 端子の両方に共通です。

OFF/9V/12V

ご注意

本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない PB-01 は、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

音声に関する機能 (CONFIG AUDIO サブメニュー)

アナログ LINE/MIC 出力の出力レベルの設定 (ANALOG OUT LEVEL)

ANALOG OUT (LINE/MIC) 端子から出力する音声信号のレベルを設定します。

設定内容は、すべての ANALOG OUT (LINE/MIC) 端子に適用されます。

LINE: ラインレベル (基準レベル: -12 dBu)

MIC: マイクロホンレベル (基準レベル: -58 dBu)

AES/EBU 出力基準レベルの選択 (AES/EBU LVL@MIC)

デジタル出力の基準レベルを選択します。

受信しているトランスミッターのオーディオ入力レベル設定が LINE の場合 (ヘッドルームが -20 dBFS の信号)、この機能の設定は無効です。設定内容は、すべてのデジタル出力端子に適用されます。

— 36dBFS LINEAR: トランスミッターから送られてきた音声、ヘッドルーム 36 dB を保ったまま出力します。

— 20dBFS LIMITER: 通常の AES/EBU インターフェースに合わせて、基準レベルを -20 dBFS に変更します。トランスミッターから送られてきた音声はコンプレッサー処理されます。

— 20dBFS ST LIMIT: -20 dBFS LIMITER モードと同様に基準レベルを -20 dBFS に変更し、チューナー 1 とチューナー 2 (チューナー 3 と 4、チューナー 5 と 6) の音声にかかるコンプレッサーをリンク動作させます。2 台のトランスミッターでステレオ音声素材を伝送するときに使用します。

ご注意

アナログ出力では機能しません。

同期信号の選択 (SYNC SOURCE)

本機の同期信号源を選択します。

32 kHz から 96 kHz までの外部同期 (ワードクロック) に対応します。

同期状態はトップ画面のデジタル出力同期表示部に「INT」または「EXT」で表示されます。「EXT」表示で、かつ同期がアンロックの場合には、表示が点滅します。

INTERNAL: 内部の同期信号 (48 kHz) で動作します。

EXTERNAL: 外部からのワードクロック信号に同期して動作します。

AUTO: 外部からの同期信号を優先し、外部同期がなくなった場合には自動的に内部同期に切り替わります。

AF ピークレベルのホールド時間の設定

(AF PEAK HOLD)

トップ画面などに表示されているオーディオレベルメーターのピークレベルのホールド条件を設定します。

2SEC：オーディオレベルメーターのピーク表示を 2 秒間保持します。

HOLD：オーディオレベルメーターのピーク表示を解除するまで保持します。

ピーク表示の解除について

AF PEAK HOLD を HOLD に設定しているときにピーク表示を解除したい場合は、各チャンネルのトップ画面を表示し SET ボタンを押してください。

PHONES 出力の設定 (PHONES OUTPUT)

PHONES スイッチを押したときのヘッドホン出力の設定を切り替えます。

MIX：選択されているすべてのチューナー出力をミックスした信号が出力されます。選択されているチューナーの PHONES インジケーターが点灯します。

SOLO：最後に選択したチューナー出力のみ、出力されます。最後に PHONES スイッチを押したチューナーのインジケーターのみ点灯します。それまでに選択していたチューナー出力は自動的に非選択の状態に切り替わり、PHONES インジケーターが消灯します。

ご注意

PHONES OUTPUT による設定は、1 つのベースユニット内でのみ有効です。ヘッドホンカスケード機能を使用している場合は、PHONES 出力の選択、PHONES OUTPUT の設定をそれぞれのベースユニットで行ってください。

その他の機能 (CONFIG OTHER サブメニュー)

本機の名前の設定 (PB NAME)

16 文字以内で本機に名前を付けることができます。入力した場合は、レシーバーの名前の設定 (26 ページ) と同様です。

すでに名前を付けてあるときは、この機能を選択すると設定された名前を表示します。

IP アドレスの設定 (PB IP ADDRESS)

本機の IP アドレスを設定します。

IP アドレスを変更した際は、本機の電源を一旦オフにしてから再起動させてください。

サブネットマスクの設定 (PB SUBNET MASK)

本機のサブネットマスクを設定します。

補足

IP アドレス、サブネットマスクについて

- 一般回線をネットワーク接続しない場合には、以下のプライベートアドレスを設定してください。* には、ネットワーク内で重複しない任意の値を設定してください。

IP Address : 192.168.0.*

Subnet Mask : 255.255.255.0 (固定)

- 一般回線を使用する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
- 本機および収納する 3 台のレシーバーには、それぞれネットワーク内で重複しない任意の IP アドレスを設定してください。

アラート機能 (ALERT FUNCTION)

ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

高周波入力レベル低下 (RF LOW)

高周波入力レベルの低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

高周波入力レベル超過 (RF OVER)

高周波入力レベルの過大入力を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

受信信号品質低下 (QL LOW)

受信信号品質の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

オーディオ入力のピークレベル超過 (AF PEAK)

オーディオ入力のピークレベルの超過を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

トランスミッターの電池残量低下 (TX BATT LOW)

トランスミッターの電池残量の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

秘匿通信設定の不一致 (ENCRYPTION)

トランスミッターと本機の秘匿通信設定の不一致を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

外部同期信号の同期外れ (EXT WORD SYNC)

外部同期 (ワードクロック) に同期できない場合に、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

オーディオコーデックモードの不一致 (CODEC MODE)

トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードの不一致を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

ディスプレイの明るさ設定 (BRIGHTNESS)

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。
設定できる値は下記のとおりです。

(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ディスプレイの自動消灯 (DIMMER MODE)

一定時間後に有機 EL ディスプレイの明るさを減光したり、消灯させる機能です。

AUTO OFF : 30 秒後に消灯します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

AUTO DIMMER : 30 秒後に減光します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

ALWAYS ON : ディスプレイの明るさ設定機能で設定された明るさで常時点灯します。

工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)

各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。

この項目を選択すると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+ または - ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと本機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

DWR-P01DN の設定は変更されません。

DWR-P01DN の設定を工場出荷時の状態に戻すときは、UTILITY メニューの FACTORY PRESET を実行してください。

ソフトウェアバージョンの表示

(PB VERSION)

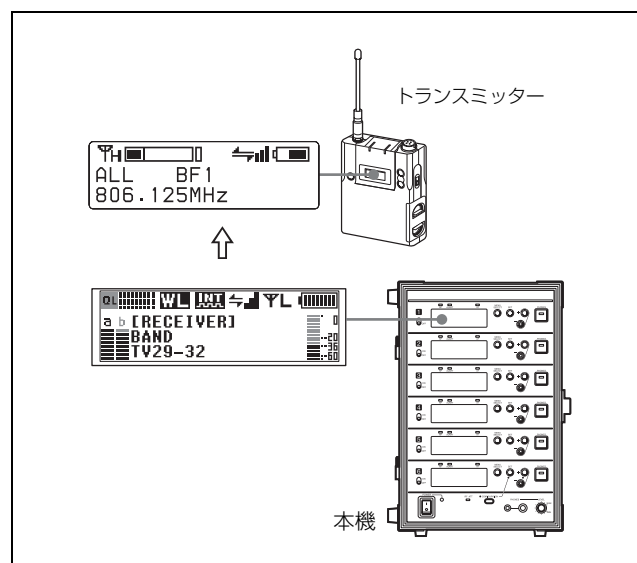
本機のソフトウェアバージョンを表示します。

本機でトランスミッターの設定を変更する

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(20 ページ) をご覧ください。

本機とペアリングされたトランスミッターの設定を、RECEIVER メニューの GP/CH 選択機能 (21 ページ) や TRANSMITTER メニュー (22 ページ) で変更することができます。

あらかじめ RF リモートメニューにてペアリングを行い、RF REMOTE を ON にしてワイヤレスリモートコントロール機能が動作可能な状態にしてから設定を行ってください。



周波数帯域の設定 (BAND)

この設定は RECEIVER メニューの BAND 画面で行います。

グループ／チャンネルの設定 (GP/CH)

この設定は RECEIVER メニューの GP/CH 画面で行います。

トランスミッター名称の設定

(TRANSMITTER NAME)

トランスミッターの名称を設定します。

省電力設定 (POWER SAVE)

電池消費を抑えるため、ワイヤレスリモートコントロールでトランスミッターの電源をスリープに設定することができます。

ご注意

トランスミッターの設定を SLEEP（スリープ）に変更した場合、音声伝送用の電波がストップしてメタデータも送信されなくなります。このため、TRANSMITTER メニューのデータ表示は、POWER SAVE 機能の「SLEEP」以外はすべて「NO DATA」になります。

送信電力の設定 (RF POWER)

トランスミッターの送信電力を変更します。

ご注意

トランスミッターの最大送信電力設定を変更した場合は、必ずペアリングを実行してください。ワイヤレスリモートコントロール機能を使った送信電力の設定が行えなくなる可能性があります。

◆ ペアリングについて詳しくは、「RF REMOTE メニュー」(23 ページ) をご覧ください。

オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)

トランスミッターのオーディオ入力レベルの設定を変更します。また、トランスミッターのオーディオ入力レベル設定が MIC に設定されている場合、アッテネーターの値を変更します。
選択できるアッテネーターの値は、トランスミッターの機能により異なります。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

ローカットフィルターの設定 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を変更します。

ご注意

選択できる周波数は、トランスミッターの機能により異なります。

トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)

トランスミッターの累積使用時間をリセットできます。

+48 V 電源設定の変更 (+48V)

トランスミッターの +48 V を ON/OFF できます。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)

オーディオコーデックモードを設定します。

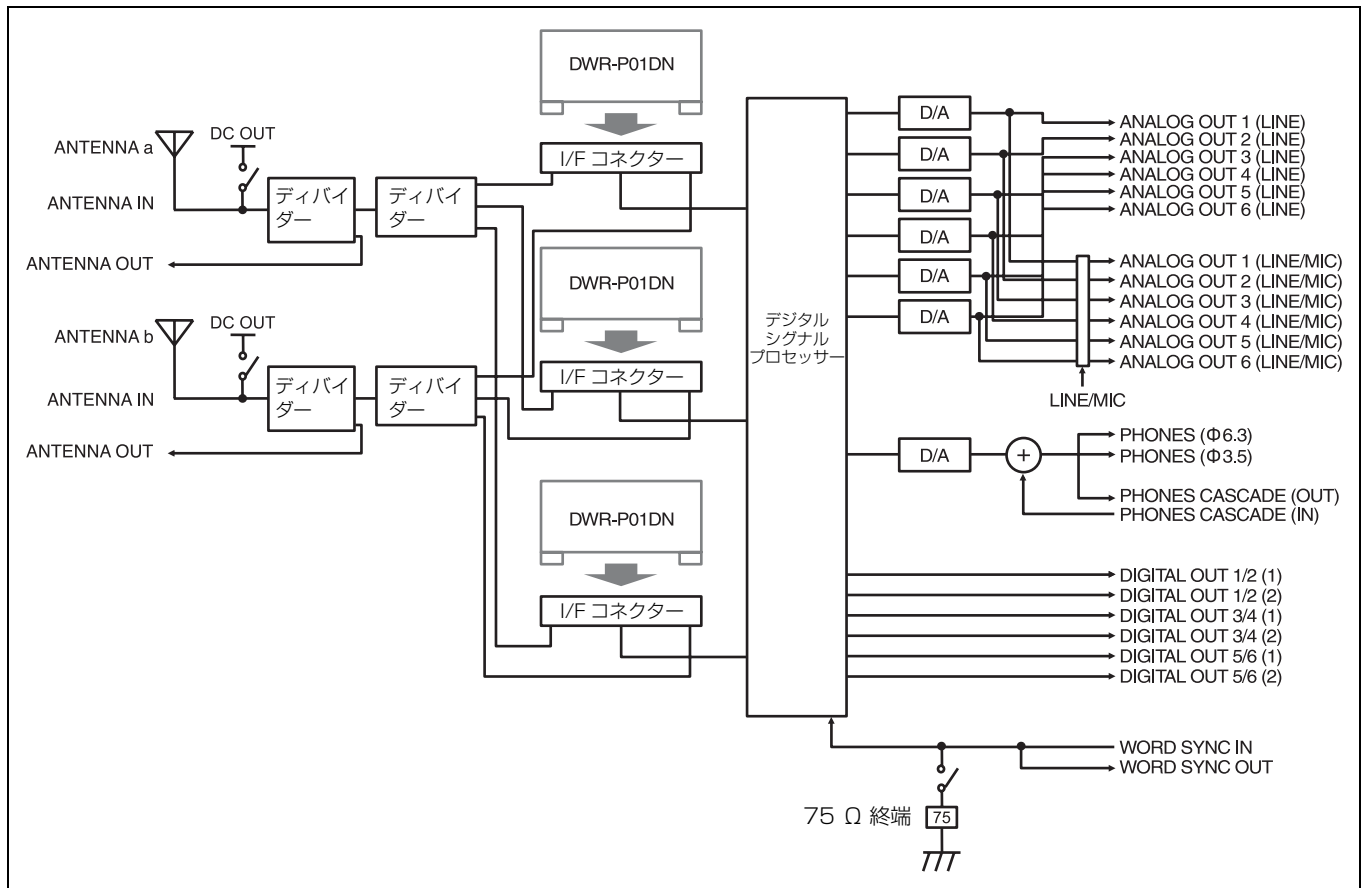
内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号（1 kHz）を発生させるかどうかを設定します。

POWER スイッチのロック設定 (PWR SW LOCK)

トランスミッターの POWER スイッチをロックするかどうかを設定します。

ブロックダイヤグラム



ALERT インジケーターが点灯したら

ALERT FUNCTION サブメニューの該当する設定項目が OFF になっている場合は、他のインジケーターやディスプレイ部の表示が変わっていても ALERT インジケーターは点灯しません。工場出荷時は QL LOW のみ ON になっています。

他のインジケーターまたはディスプレイ部の表示（ALERT FUNCTION サブメニューの該当する設定項目）	警告の原因	処置
AF/PEAK インジケーターが赤く点灯（AF PEAK）	トランスミッターのオーディオ入力ピークレベルを超えている。	トランスミッターのオーディオ入力アッテネーターを変更して入力レベルがピークを超えないようにしてください。 ワイヤレスリモート機能で本機からの設定変更が可能です（23 ページ）。
電池残量表示が点滅（TX BATT LOW）	トランスミッターの電池が間もなく切れる。	トランスミッターの電池を交換してください。
QL メーターの点灯本数が減少（QL LOW）	アンテナへの電波入力レベルの低下または妨害波（混信）などの影響で受信信号の品質が低下している。	(1) RF インジケーターが赤く点灯または消灯している場合は、アンテナへの電波入力不足が考えられます。 - トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 - 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 - トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。 (2) RF インジケーターが緑色点灯なのに、QL メーターの点灯本数が減少する場合は混信の可能性があります。 - 運用チャンネルプランに問題がないか確認してください。 - ほかに運用している外来電波がないか確認してください。
RF インジケーターが橙色に点灯（RF OVER）	アンテナへの電波入力レベルが 80 dB μ (0 dB μ =1 μ VEMF) 以上ある。	多チャンネル同時運用に影響が出る可能性があります。次のいずれかを試してください。 - アンテナからトランスミッターを離してお使いください。 - 本機の PB ANT ATT a/b 設定値を上げてください。PB ANT ATT a/b 設定値を上げた場合は、必ずトランスミッターとレシーバーとの伝送距離限界も確認してください。
RF インジケーターが赤く点灯または消灯（RF LOW）	アンテナへの電波入力レベルが受信ぎりぎり、または受信不能。	- トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 - 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 - トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。
オーディオレベルメーター部分に鍵のアイコンが点滅（ENCRYPTION）	トランスミッターと本機の秘匿通信設定が合っていない。	トランスミッターと本機の秘匿通信設定を合わせてください（21 ページ）。
デジタル出力同期表示の「EXT」が点滅（EXT WORD SYNC）	DIGITAL OUT 端子からの出力信号が、外部同期ワードクロックに同期していない。	- 同期信号入力部の接続が正しいかを確認してください。 - 同期信号が本機の仕様にあっているか確認してください。
CODEC MODE UNMATCH と表示（CODEC MODE）	トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードが合っていない	トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードの設定を合わせてください。

エラーメッセージ

メッセージ	意味
ANTENNA OVER CURRENT	ANTENNA IN 端子からの DC OUT 出力が許容電流を超えた。またはショートした。
CPU EEP ROM NG	CPU EEP ROM のデータが正しくない。
RF EEP ROM NG	RF EEP ROM のデータが正しくない。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードを AC IN 端子に、ホルダーでしっかりと固定してください。また、電源コードをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
	DC 電源スイッチが OFF になっている。	DC 12 V 電源で本機を使用する場合は、背面の DC 電源スイッチを ON にしてください。
レシーバーの電源が入らない。	レシーバーが正しく取り付けられていない。	レシーバーを奥まで差し込み、ロックつまみを締めて確実に取り付けてください。
音が出ない。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルが違っている。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルを合わせてください。
	トランスミッターの電源が OFF になっている。	トランスミッターの電源、電池を確認してください。
	秘匿通信機能の設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	トランスミッターとレシーバーの秘匿通信機能の設定が同じになっているか確認してください。
	WORD SYNC IN/OUT 端子の同期信号の入力／出力状態と 75 Ω 終端スイッチの設定があていない。	「ワードクロックとオーディオの接続例」(16 ページ)を参考に、接続および 75 Ω 終端スイッチの設定を確認してください。
	オーディオコーデックモードの設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	レシーバーとトランスミッターのオーディオコーデックモードの設定を同じにしてください。
音が小さい。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が大きいです。	トランスミッターのアッテネーターを適正量に設定してください。
音がひずむ。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。	トランスミッターへの入力音量が過大です。音がひずまないようにトランスミッターのアッテネーターを設定してください。
	トランスミッターの入力レベルが MIC 設定のまま LINE レベルの信号を入力している。	トランスミッターに付属の取扱説明書を参考にして、入力レベルを LINE に設定してください。
音切れ、ノイズが発生する。	トランスミッターの電源を切っても、レシーバーの RF インジケーターが点灯している。	周辺に妨害波が出ています。まず、レシーバーの RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、トランスミッターを同じチャンネルに設定してください。2 本以上のトランスミッターを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。クリアチャンネルスキップ機能 (21 ページ) が便利です。
	2 台以上のトランスミッターが同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上のトランスミッターは使用できません。付属の CD-ROM「DWX Series」に収録されている周波数リストに従って、各トランスミッターのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	レシーバーのチャンネルプランは、複数台のトランスミッターを使用する場合、それぞれのトランスミッターが混信しないように設定してあります。使用するトランスミッターを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
ワイヤレスリモートコントロールができない。	ペアリングされていない。	ペアリングを行ってください (23 ページ)。
	通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。	コンディションレベル (6 ページ) を確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。
	ペアになっていたトランスミッターが別のレシーバーとペアリングされた。	再度、コントロールしたいトランスミッターとペアリングを行ってください (23 ページ)。
ディスプレイが暗い。	ディスプレイの明るさが低く設定されている。	メニュー設定でディスプレイの明るさを調節してください (29 ページ)。
ヘッドホンからの音がひずむ。	カスケード接続がループ接続されている。	接続方法を修正してください (12 ページ)。
Wireless Studio で本機を認識できない。	本機に対応していないバージョンの Wireless Studio を使用している。	付属の CD-ROM に入っている Wireless Studio にアップデートしてください。
	IP アドレスがネットワーク内で重複している。	ネットワーク内で重複しないように IP アドレスを再設定してください。

使用上のご注意

使用・保管場所

- 本機は周囲温度 0℃～50℃の範囲で動作します。
- 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離したり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクタ部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- 表面やコネクタ部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

受信チャンネルによる感度差について

使用するチャンネルによって受信感度に差がある場合があります。運用開始時には、クリアチャンネルスキャン機能を使って、影響が最も少ないチャンネルを選んで使用することをおすすめします。

また、運用前には、送信機の電源がオフの状態での RF インジケーターが点灯しないことを確認してください。

受信電波が弱い場合の音声劣化について

デジタルワイヤレスシステムの場合、電波が届く限界距離まで音声品質が一定に保たれます。さらに受信電波が弱くなると、最終的にはデータの同期がとれなくなり音声断となります。そのような特性を踏まえ、ソニーのデジタルワイヤレスシステムでは電波の到達限界点から音声断にいたる音声劣化の領域において、大きなノイズ音の発生を抑え、極力自然に音声が悪化していくようデジタル処理を行っております。

ライセンスについて

本製品は、T-Engine フォーラム
(<http://www.t-engine.org>) の T-License 2.0 に基づき
 μ T-Kernel ソースコードを利用しています。

主な仕様

アンテナディバイダー部

周波数範囲	470.150 MHz ~ 713.850 MHz、 1240.150 MHz ~ 1259.850 MHz
アンテナ入力端子	BNC-R、50 Ω (2) (DC 9 V/12 V/OFF 切り替え可能)
カスケード出力端子	BNC-R、50 Ω (2)
カスケード接続台数	最大 3 台
通過損失	± 3 dB 以内
端子間結合損失	15 dB 以下
アンテナブースター用電源	DC 12 V 100 mA max または DC 9 V 160 mA max (アンテナ入力端子より 供給)
高周波アッテネーター	0 dB/5 dB/10 dB 切り替え可能

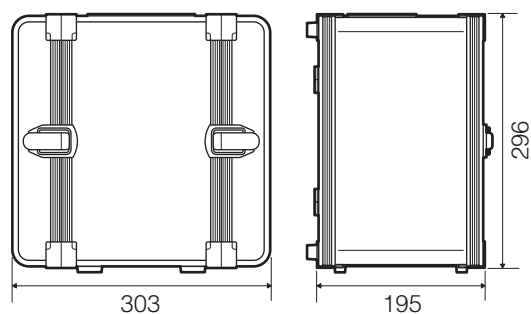
オーディオ部

ANALOG OUT 端子	XLR-3-32 タイプ (12) (チューナーごとに 2 系統ずつ)
DIGITAL OUT 端子	XLR-3-32 タイプ、110 Ω (3) BNC-R、75 Ω (3) (それぞれレシーバーごとに 1 系統ずつ)
WORD SYNC IN/OUT 端子	BNC-R (入力/出力：各 1)、75 Ω 終端 切り替え機能付き (32 kHz ~ 96 kHz)
PHONES 端子	ステレオ標準ジャック/ステレオミニ ジャック
PHONES 定格出力	70 mW (16 Ω 負荷時)
基準出力レベル	(0 dBu=0.775 Vrms) アナログ： - 58 dBu (LINE/MIC 出力を MIC 設定 時) - 12 dBu (LINE/MIC 出力を LINE 設定 時、LINE 出力) デジタル：- 36 dBFS/ - 20 dBFS 切り 替え
ダイナミックレンジ	106 dB 以上 (A-Weighted、DWR-P01DN 装着時)
全高調波歪率	MODE1、MODE2：0.03% 以下 MODE3：0.3% 以下 (DWR-P01DN 装着時)

音声遅延時間	アナログ出力、DWR-P01DN 装着時
	MODE1 : 1.9 msec
	MODE2 : 0.5 msec
	MODE3 : 1.9 msec
	デジタル出力、DWR-P01DN 装着時
	MODE1 : 1.9 msec
	MODE2 : 1.5 msec
	MODE3 : 2.8 msec

一般

外形寸法図 (単位 : mm)



質量	約 6.0 kg (ふた含む。アンテナ、レシーバー含まず)
電源電圧	AC 100 V DC 12.0 V (DC IN)
電源コネクタ	AC : 3P インレット DC : XLR-4-32F タイプ
消費電力	36 W (AC 100 V 時)
消費電流	2.5 A (DC 12 V 時)
LAN (10/100) 端子	RJ-45 モジュージャック (1) 100BASE-TX: IEEE802.3u 準拠 10BASE-T: IEEE802.3 準拠
許容動作温度	0 °C ~ 50 °C
許容保存温度	- 20 °C ~ + 60 °C
付属品	ホイップアンテナ (2) AC 電源ケーブル (1) ホルダー (1) カスケード接続ケーブル (1) ご使用になる前に (1) ワランティブックレット (1) CD-ROM (取扱説明書) (1) CD-ROM (PC コントロールソフトウェア) (1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>